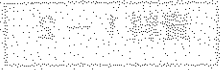


具体的な施策の展開シート



十一 清風の歌歌歌情情情

目次

具体的な施策の展開等	ページ
1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底	
(1) がん	1
(2) 循環器疾患	5
(3) 糖尿病	8
(4) CKD(慢性腎臓病)	11
2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上	
(1) こころの健康	13
(2) 次世代の健康	15
(3) 働き盛り世代の健康	17
(4) 高齢者の健康	19
3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり	
(1) 栄養・食生活	21
(2) 身体活動・運動	23
(3) 休養	25
(4) 飲酒	26
(5) 喫煙	28
(6) 歯・口腔の健康	30
4 健康を支え、守るための社会環境の整備	
(1) 小学校区単位の健康まちづくり	32
(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援	34
(3) 企業・大学等の健康づくり活動の促進	36
成果指標等の推移	38

1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目	(1)がん					
指標項目	1	75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少 (10万人当たり)	基準値	実績値	目標値	
			H22	H24	H27	
			79.8	75.4	70.0	
	2	がん検診受診率の向上 (市が実施するがん検診の他、職場検診、人間ドック等を含む)	基準値	実績値	目標値	
			H23	H27	H30	
			肺	19.9%	29.0%	40%
			胃	28.7%	39.7%	40%
			大腸	27.9%	35.3%	40%
			乳	46.3%	48.4%	50%
			子宮頸	37.3%	47.4%	50%
取り組み施策	概 要					
1	発症予防	禁煙やバランスのとれた食事等がんに対する正しい知識の普及等を行い、がんの発症を予防する。				
2	早期発見	がん検診について、市民にわかりやすい情報提供や、企業や団体等と連携した啓発等をすすめることにより、がん検診の受診率向上を図る。				
3	情報発信・相談支援	がんサロンの支援やがんの治療、在宅医療に関する情報提供等を行い、患者や家族を支援する。				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

具体的な内容等

被保険者・被扶養者を対象としたがん検診の実施【県保険者協議会】
各市町村において要精密検査者に対して健診後の結果説明会を実施した。【日赤健康管理センター】
肺がんについて、禁煙の関心レベルに合わせた禁煙指導を実施し、リーフレット配布や禁煙実施医療機関のパンフレット配布【日赤健康管理センター】
乳がんについて、好発部位や自己触診法を指導【日赤健康管理センター】
肝臓がんについて、食事や運動療法の必要性及びアルコール性肝炎について節酒・禁酒指導【日赤健康管理センター】
①啓発活動
・大腸がん検診啓発トイレットペーパー(5万個)
・子宮頸がん撲滅ラッピングバス(熊本市営バス1台)
・自動販売機(100箇所)、ポスター(企業・病院・学校)、ぬいぐるみ(銀行・病院等)、タクシーによる啓発
・ピンパッチによる募金(約1,000個)
・情報誌(Nasse)による啓発広告の掲出(がん検診受けまじょうの記事、学生サポーター紹介)
②学生サポーター
・崇城大学薬学部(ruban ルバン)
・熊本大学医学部(CaPs キャップス)
・九州看護福祉大学(KEEus キース)
・熊本学園大学(YOU ヨウ) 合計 100名
③活動実績
・タッチ！がん検診×子宮の日セミナー(4/6) ※学生サポーターと共に参加(パネルディスカッション)
・リレーフォーライフくまもと2014(5/17~18) ※学生と共に参加
・子宮頸がん撲滅ラッピングバス出発式(8/1)
・大腸がん撲滅大作戦(8/23) ※高野病院 山田院長による講演、トイレットペーパーお披露目
・KKT夢まちランド(10/26~27) ※啓発ブースの出展、学生サポーターによるチラシ配り
・熊本県立大学 学園祭「白亜際」(11/8) ※啓発ブースの出展、学生サポーターによるチラシ配り
・音楽玉手箱(12/21) ※スペシャルサポーターとして参画、チラシの配布や映像による啓発
・熊本大学キックオフイベント(1/19) ※熊本大学生サポーター結成及びサポーター募集の為のイベント
【がん予防協会】

	<p>事業場の産業保健スタッフ等を対象に胆管がん等職業性健康障害の防止や食事でのがん等の生活習慣病の予防に関する研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】</p> <p>労働安全衛生法に定める年1回の定期健康診断の事業場での確実な実施を指導している。また、特定化学物質障害予防規則等に定める有害業務に従事する労働者に6ヶ月毎に特殊健康診断の確実な実施を指導している。特に9月を強化月間として周知広報を行っている。【労働基準監督署】</p> <p>市関係機関(北区保健子ども課)の協力を得て、校区敬老会及び楡木ふれあい春まつり等でがん予防の講演会及び春まつりでは成人病のアンケートを行った。その結果で楡木校区健康まちづくりワークショップを開催している。【北区内】</p>
1	<p>保健事業においてがん(治療中または経過観察中)の患者の療養指導【県保険者協議会】</p> <p>熊本市のがんパンフレット作成に伴うワーキンググループに参加(乳がん)【協会けんぽ】</p> <p>加入者本人に対し、生活習慣病予防健診(含む大腸・胃・肺・乳・子宮頸がん)を実施。生活習慣病予防健診受診率:58.07%対前年比+2.07%【協会けんぽ】</p> <p>特定健診受診券送付時、熊本市のがん検診の受け方を詳細に記載した印刷物を同封した。【協会けんぽ】</p> <p>リレーフォーライフ熊本及び食と健康フェアに参加し、パネル展示やパンフレット配布によりがんの周知及び検診の受診啓発を行った。【協会けんぽ】</p>
2	<p>熊本県と共催で、事業所に対する子宮頸がんセミナーを開催した。(参加72名)【協会けんぽ】</p> <p>熊本日日新聞暮らし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、大腸がん・子宮頸がんの記事を掲載【協会けんぽ】</p> <p>肺がんについて、喫煙者に対して早期発見の為に胸部CT検査の必要性を説明【日赤健康管理センター】</p> <p>乳がんについて、乳エコーやマンモグラフィ検査を案内【日赤健康管理センター】</p> <p>大腸がんについて、便潜血陽性者に対して、好発部位や症状、全大腸検査の必要性について説明し検査へ案内【日赤健康管理センター】</p> <p>施設内において、がんに関する検査を中心とした”セレクト健診”を実施している。【日赤健康管理センター】</p> <p>上記1に記載した活動の実施【がん予防協会】</p> <p>日赤が実施するPET-CT検診について、熊本商工会議所会員向けの特別料金を設定し、会員事業所の福利厚生サービスの一環として周知。がんの早期発見と早期治療の一助とすべく取り組んだ。【熊本商工会議所】</p> <p>熊本商工会議所ホームページ「新着情報」に、「がん検診のご案内～クーポンの有効期限が迫っています」の記事掲載を平成27年1月5日～1月31日の期間行った。【熊本商工会議所】</p> <p>がん部会との連携により、健康フェスティバルや健康塾等で検診受診を促した(パンフレット配布等)【南区内】</p>
3	<p>熊本県歯科医師会が、医科と連携して「熊本県がん患者医科歯科医療連携事業※」を実施 ※がん治療に伴い発症する様々な口腔合併症に対し、入院から退院後まで、口腔ケアや訪問診療を医科と連携して行う事業【市歯科医師会】</p> <p>各種がんの発症予防の説明とパンフレットの配布【日赤健康管理センター】</p> <p>機関紙等での定期的な情報の発信【日赤健康管理センター】</p> <p>がん病態専門管理栄養士による病院内での相談指導業務にあたっている。【県栄養士会】</p>

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ささえりあで開催する研修会の後援を日本がん予防協会にお願いしているため、その研修会でチラシなどを配布する予定【地域包括支援センター連絡協議会】 ・以下の取り組みを実施予定【がん予防協会】 <ul style="list-style-type: none"> ・4大学新歓イベント(4/26) ・タッチ！がん検診×母の日セミナー(5/9) <ul style="list-style-type: none"> ※学生サポーターと共に参加(企画ブース、パネルディスカッション) ・リレーフォーライフくまもと2015(5/16～17) <ul style="list-style-type: none"> ※学生サポーターと共に参加(オリジナルハーブティー等ブース出展) ・九州看護福祉大学 新歓イベント(6/20) ・水前寺ふれあい広場 オープン(8月) ・地方行政ICTフォーラム九州(8/18～19)※共催として参加(理事長講演、啓発ブース出展) ・がん啓発セミナー(9/19)※乳がんに関する講演会ほか ・がん撲滅チャリティライブ(10/3～4) ・がん撲滅チャリティライブ(12/18～19)
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

H27取り組み

- ・熊本商工会議所会報誌『商工ひのくに』(月刊・発行部数約7,000部)のコーナー「情報のひろば」において、がん検診案内記事を掲載。事業主並びに従業員に対し浸透をはかる。(平成27年4月号にて実施済)【熊本商工会議所】
- ・8月29日(土)開催の講演会「知ってください、大腸がんのこと!～大腸がん専門医・大腸がん体験者からのメッセージ」(熊本市主催)について、熊本商工会議所ホームページ「新着情報」のコーナーに掲載。(平成27年8月3日より掲載)【熊本商工会議所】
- ・身近ながんを知ることによって注意喚起を図りがんの恐さを知ってもらうためポスター掲示、町内回覧等で啓発したい【北区内】

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等

1	<p>食と健康フェア等のイベントや地域の催事等の機会を活用し、たばこの健康への影響に関する情報提供や日常生活におけるがんの予防法等について啓発を実施</p> <p>小学生を対象に禁煙啓発ポスターコンテストを実施。ポスターを作成し、庁内関係課やがん対策協定企業へ配布した。</p>
	<p>国の指針に基づき、肺・胃・大腸・乳・子宮頸がんの5種の検診を実施</p> <p>各種がん検診について、市政だより、市ホームページ、ラジオ、民間情報紙等で受診勧奨の広報を実施</p> <p>幼児健診や子育てサークル支援、高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、各種がん検診の啓発を実施</p> <p>地域における啓発実績 (94校区中 91校区 819回 25,472人) ※その他は区単位、ブロック単位、幼児健診での啓発数含む)</p> <p>中央区(19校区 102回 3,316人 その他 73回 3,248人)</p> <p>東区(18校区 86回 2,815人 その他 134回 4,139人)</p> <p>西区(16校区 82回 1,955人 その他 89回 1,999人)</p> <p>南区(18校区 81回 1,581人 その他 12回 252人)</p> <p>北区(20校区 144回 4,589人 その他 16回 1,578人)</p> <p>集団健診の機会に各種がん検診の啓発を実施</p> <p>南区:城南地域等で実施 (76回 1,366人)</p> <p>北区:植木地域で実施 (11回 910人)</p> <p>満40歳になる市民全員にがん検診勧奨はがきを送付(平成26年9月10, 808人)</p> <p>満20歳になる女性に対し子宮頸がん検診受診勧奨通知を送付(平成26年11月3, 855人)</p> <p>乳がん・子宮頸がん検診において、対象年齢となる偶数年齢者の受診期間を5月末まで猶予する特例受診許可証を発行</p>
2	<p>特定年齢(62、65、68歳)を対象に肺がん検診の受診勧奨ちらしを個別送付(27,140人)</p> <p>協会けんぽやがん対策協定企業等との連携による受診率向上のための啓発を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協会けんぽ扶養者への特定受診券送付時に市がん検診の案内を同封(約27,000人) ・がん対策協定企業へ情報提供や広報を依頼 <p>受診率向上等に向けて、関係課によるがん対策ワーキンググループを設置し、受診率向上にむけた取り組み計画及び合併町の検診体制について検討した。(年1回会議を実施)</p> <p>がん対策を推進する企業・団体との協定締結に向け公募を実施</p> <p>協会けんぽ加入者に、集団検診の受診勧奨を実施した。(植木地区の集団検診)</p> <p>保育園を通じて、保護者に検診受診勧奨チラシを配布した。</p> <p>がん対策を推進する企業2社とがん対策企業等連携協定を締結した。(H26.7.2)</p> <p>子宮頸がん、乳がん、大腸がん検診啓発パンフレットを効果的な広報ツールとするため関係機関(協会けんぽ、がん協定企業や大学生等)とワーキンググループを設置し、内容を検討した上で作成した。</p> <p>大腸がんについては、5歳刻みの方を対象に無料クーポン券を送付(49,590人)</p> <p>乳がん及び子宮頸がんについては、平成21～24年度の検診未受診者に無料クーポン券の送付(乳がん:62,361人、子宮頸がん:61,666人)また、受診者を対象に定期受診を促す個別勧奨を実施</p> <p>区内の企業やJA、旅館組合等に対し、従業員のがん検診受診勧奨のためのポスター掲示及び、受診勧奨依頼を行った(6箇所)</p>

働き世代や子育て世代を対象にしたがんサロンを毎月1回開催し、がん患者を支援(12回)

がん体験者の体験談を取り入れたがんに関する出前講座を開設し、検診の重要性やがんになっても、当惑することがないような啓発を実施(H26年度は0)

がんに関する悩みや不安への相談対応及び治療法に関する情報発信等を行う「がんサポートセンター」を開設(平成25年7月1日)平成26年度の相談件数:95件

がん患者大交流会を開催(1回)

がん患者でも安心して療養できる在宅医療についての講演会を開催(1回)

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み

- ・図書館と連携した啓発を実施。今年度は森都心プラザの図書館に、がんに関連する資料を設置(各種がんに関するパンフレット、がん相談・がんサロンの案内リーフレット、検診の案内)
- ・ホームページ「がん情報センター」の情報の更新
- ・がん検診受診を促す川柳を募集し優秀作品を用いた缶バッジを作成する
- ・がん検診受診者で要精密検査となったが未受診の者への受診勧奨を行う
- ・生活習慣病ネットワーク連絡会において、医療機関と校区の健康づくり組織の代表者と行政が協議し、特定健診強化月間を実施を予定しているが、同時に大腸がん検診についての受診勧奨を行う
- ・がん検診受診率向上のために、校区の各がん検診の受診率等の資料を作成し、市民への啓発を図る。大腸がん検診受診率向上のために、市民への啓発用の資料を作成し、検診実施機関である医療機関での受診勧奨を依頼する

※参考(1)

熊本市がん検診受診率(推計対象者による算出) 職場健診、人間ドック等は含まず

		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
肺がん	対象者数	193,079	193,079	203,783	203,783	203,783
	受診者数	27,676	25,127	22,861	22,579	22,443
	受診率	14.3%	13.0%	11.2%	11.1%	11.0%
胃がん	対象者数	193,079	193,079	203,783	203,783	203,783
	受診者数	11,688	11,022	10,556	10,107	9,904
	受診率	6.1%	5.7%	5.2%	5.0%	4.9%
大腸がん	対象者数	193,079	193,079	203,783	203,783	203,783
	受診者数	21,704	24,708	22,670	22,467	22,194
	受診率	11.2%	12.8%	11.1%	11.0%	10.9%
乳がん	対象者数	127,030	127,030	131,536	131,536	131,536
	受診者数	12,826	13,124	12,036	11,837	14,183
	受診率	18.9%	19.4%	18.1%	17.1%	18.9%
子宮がん	対象者数	164,362	164,362	167,436	167,436	167,436
	受診者数	20,168	19,936	19,017	18,678	23,530
	受診率	23.9%	23.5%	23.0%	22.0%	24.8%

※参考(2)

無料クーポン利用率
(H26実績)

(単位:人)

	対象者	利用者	利用率
大腸がん	49,590	4,531	9.1%
乳がん	62,361	7,198	11.5%
子宮がん	61,666	10,421	16.9%

1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目		(2)循環器疾患					
指標項目	3	脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少 (10万人当たり)	基準値		実績値	目標値	
			H22		H24	H34	
			脳血管疾患	男性	36.3	35.9	28.4
			虚血性心疾患	女性	22.9	21.2	20.7
	4	血圧が正常域の者の増加	基準値		実績値	目標値	
			H23		H26	H34	
			51.4%		52.8	増加傾向へ	
	5	脂質異常症(高コレステロール血症)患者の減少 ※LDLコレステロール160mg/dl以上	基準値		実績値	目標値	
			H23		H26	H34	
			男性	10.3%	9.8%	6.2%	
			女性	15.2%	14.7%	8.8%	
	6	メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少	基準値		実績値	目標値	
			H20		H25	H29	
該当者			14.9%	15.5%	H20に比べ25.0%減少		
		予備群	13.0%	12.0%			
7	特定健康診査の受診率・特定保健指導実施率の向上	基準値		実績値	目標値		
		H23		H25	H29		
		診査受診率	25.8%	26.8%	60.0%		
		指導実施率	16.8%	15.7%	60.0%		
取り組み施策		概要					
1	発症予防・早期発見	循環器疾患の予防に関する知識の普及や、特定健康診査の受診を啓発し、脳血管疾患、虚血性心疾患等の発症予防に取り組む。					
2	重症化防止	要治療者で医療機関未受診の者に受診勧奨を行うとともに、脳卒中地域連携パスの利用に関する情報提供を行うなど重症化防止に努める。					
3	推進体制の整備	市民への啓発を進めるため、医療機関や医療保険者、事業所の健康管理者等との連携を図る。					

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	<p>当ささえりあで開催している「15分続けて歩こうプロジェクト」において、地域役員(自治会長、社協長、民生委員さんなど)に、体内脂肪、筋肉量などの検査(インボディ、スカイテン)を実施し、効果を測定した。現在も歩くことを続け、体重の減少、血糖値の減少などを目標に続けている方が増えてきている。【地域包括支援センター連絡協議会】</p> <p>特定健診・特定保健指導の実施 平成26年度実績(協働事業分):積極的支援 220人、動機づけ支援 95人【県保険者協議会】</p> <p>加入者本人に対し、生活習慣病予防健診(含む大腸・胃・肺・乳・子宮頸がん)を実施。非扶養者に対しては特定健診を実施。生活習慣病予防健診受診率:58.07%対前年比+2.07%(再掲1がん)【協会けんぽ】</p>

	熊本日新聞暮らし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、循環器疾患に関する記事を掲載【協会けんぽ】
	血圧高値対象者へ高血圧についてのリーフレット配布と説明(自己血圧測定方法・食事運動療法について)【日赤健康管理センター】
	脂質異常対象者へ脂質異常症についてのリーフレット配布と説明(食事運動療法について)【日赤健康管理センター】
	メタボリックシンドローム対象者へ特定保健指導の実施(積極的支援・動機づけ支援)【日赤健康管理センター】
	健康支援サイト「日赤hara凹ナビ」を制作し、登録者に健康情報を配信した【日赤健康管理センター】
	MRI装置更新による脳内血管疾患に関する啓発(機関紙にて)【日赤健康管理センター】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、食生活の見直しを図り、脳卒中や心臓病の予防に関する研修会を実施した【熊本産業保健総合支援センター】
1	労働安全衛生法に定める年1回の定期健康診断の事業場での確実な実施を指導している。また、特定化学物質障害予防規則等に定める有害業務に従事する労働者に6ヶ月毎に特殊健康診断の確実な実施を指導している。特に9月を強化月間として周知広報を行っている。(再掲(1)がん)【労働基準監督署】
	食と健康フェアや健康フェスティバルにおいて健康栄養相談等を行い市民への食の大切さ重要性の啓発を進めている。食と健康フェア2014(栄養相談延360人)(健康フェスティバル栄養相談362人)【県栄養士会】
	校区健康づくり推進協議会主催のウォーキング・ウォークラリーハイキング大会(各100余名参加)の折に保健師により講話等を実施【東区内】
	手軽にできるウォーキングやジョギング体操等をとおして、循環器疾患の重症化防止をはかる活動を実施した(わくわく健康塾)【南区内・他】
	個々には生涯学習センター等で運動しているが、町内では気功教室を実施。校区内ではグランドゴルフ等も盛んである。運動等の活動を通じて循環器疾患の予防に努めている【北区内】
2	・メタボ予備群(39歳以下)の対象者への保健指導を実施 ・受診勧奨、治療中断者への保健指導を実施 平成26年度実績:事業所巡回指導 延べ532人、家庭訪問(被扶養者) 延べ15人【県保険者協議会】
	要治療判定者であって医療機関未受診者について受診勧奨を実施【日赤健康管理センター】
	食事運動療法について指導を実施し重症化予防に努める【日赤健康管理センター】
3	食と健康フェアや健康フェスティバルにおいて健康栄養相談等を行い市民への食の大切さ重要性の啓発を進めている。食と健康フェア2014(栄養相談延360人)(健康フェスティバル栄養相談362人)(再掲上記1)【県栄養士会】
	特定保健指導受診勧奨のためにパンフレットを配布【日赤健康管理センター】

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	くまもとスマートライフプロジェクト”特定健診・がん検診等受診率向上”に他企業とコラボし、提案書提出【日赤健康管理センター】
---------	---------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等

特定健診受診率向上のため、国保加入者に対し、電話や個別勧奨通知を送付
(電話約79,000件、ハガキ77,000件)

子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、循環器疾患の予防等に関する情報提供や特定健診の受診を啓発

・地域における循環器疾患の啓発実績

(94校区中 82校区 計 400回 9,645人) ※その他は区単位、ブロック単位での啓発数

中央区(15校区 25回 667人 その他 4回 28人)

東区(15校区 34回 877人 その他 5回 337人)

西区(15校区 56回 1,214人 その他 33回 889人)

南区(20校区 171回 3,352人 その他 13回 244人)

北区(17校区 46回 1,411人 その他 13回 626人)

・地域における特定健診の啓発実績

(94校区中 93校区 計 575回 18,363人) ※その他は区単位、ブロック単位での啓発数

中央区(19校区 79回 2,797人 その他 10回 228人)

東区(17校区 85回 2,630人 その他 9回 638人)

西区(16校区 128回 2,793人 その他 12回 300人)

南区(21校区 106回 2,253人 その他 12回 256人)

北区(20校区 121回 4,940人 その他 13回 1,528人)

集団健診の機会に循環器疾患の予防に関する情報提供や特定健診の受診を啓発

・循環器疾患の啓発実績

南区:城南地域等で実施(20回 683人)

北区:植木地域で実施(11回 910人)

・特定健診の啓発実績

南区:城南地域等で実施(166回 2603人)

北区:植木地域で実施(11回 910人)

「健康づくりできます店」を多くの市民の方々に活用してもらうためスタンプラリーを開催した。

特定健診受診率向上のため、医療機関と治療中者に対する受診勧奨の取り組み強化、協会けんぽとの共同事業の実施

市民医療講演会のテーマを、「脳血管疾患及び心疾患」として開催。病気や市内の医療機関の優れた治療技術について、医師が市民に分かりやすい説明を行った。(1回)

協会けんぽ、東区管内健診機関(日赤健康管理センター・総合保健センター)等と協働で東区健康フェスタ(H27.3.15)を実施し、特定健診・後期高齢者健診・生活習慣病予防健診を実施。(受診者数:特定健診国保89人・協会けんぽ4人、後期高齢者健診16人、協会けんぽ生活習慣病予防健診108人)

重症高血圧の要治療者に対して保健師や栄養士による受診勧奨を実施(文書や電話、家庭訪問等)
受診勧奨実績:特定健診受診者でⅢ度高血圧かつ未治療者74人

区単位で地域のかかりつけ医と区役所等との連携強化を図るため生活習慣病対策ネットワーク連絡会を開催

開催実績 5回 医療機関76人、市関係104人、計180人

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み

・平成27年度も、「脳血管疾患及び心疾患」をテーマに、熊本市内の医療機関で行われている優れた医療技術を市民に分かりやすく説明する。

・集団健診の結果説明会での啓発を、従来の植木地区に加え、新たに清水、龍田、北部地区での集団健診についても実施する。

・医療機関への働きかけの強化として、特定健診実施機関以外にも、眼科および整形外科へ特定健診受診および重症化予防啓発ポスターの掲示を依頼。

1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目		(3)糖尿病			
指標項目	8	治療継続者の割合の増加 HbA1c6.5% (NGSP値)以上で治療中の者の割合	基準値 H23 41.3%	実績値 H26 44.2%	目標値 H34 増加傾向へ
	9	血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少 ※HbA1cが8.4% (NGSP値)以上の者	基準値 H23 1.3%	実績値 H26 1.1%	目標値 H34 基準値より0.2%減少
	10	糖尿病有病者の増加の抑制 糖尿病治療薬内服中またはHbA1c6.5% (NGSP値)以上未治療中者の割合	基準値 H23 10.2%	実績値 H26 6.6%	目標値 H34 減少傾向へ
取り組み施策		概 要			
1	発症予防	糖尿病の発症予防のため、糖尿病やその予防法について正しい理解(知識や技術等)の普及啓発を図る。			
2	早期発見	糖尿病の早期発見のため特定健診・職域での定期健診等の受診率向上や保健指導の徹底を行う。			
3	重症化防止	糖尿病の重症化を防ぎ、合併症や心血管疾患の発症予防、進展抑制を図る。			
4	推進体制の強化	地域保健医療の連携体制、職域や地域コミュニティー等において糖尿病の発症予防から悪化防止までの推進体制の整備を図る。			

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	熊本市歯科医師会では「糖尿病・歯周病医療連携」が実施されており、糖尿病と歯周病との関係など、発症予防のポスターなどで啓発をしている。【市歯科医師会】
	当ささえりあで開催している「15分続けて歩こうプロジェクト」において、地域役員(自治会長、社協長、民生委員さんなど)に、体内脂肪、筋肉量などの検査(インボディー、スカイテン)を実施し、効果を測定した。現在も歩くことを続け、体重の減少、血糖値の減少などを目標に続けている方が増えてきている。(再掲(2)循環器疾患)【地域包括支援センター連絡協議会】
	加入者本人に対し、生活習慣病予防健診(含む大腸・胃・肺・乳・子宮頸がん)を実施。非扶養者に対しては特定健診を実施。生活習慣病予防健診受診率:58.07%対前年比+2.07%(再掲1がん)【協会けんぽ】
	熊本日日新聞暮らし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、糖尿病に関する記事を掲載(再掲(2)循環器疾患)【協会けんぽ】
1	糖尿病や予防について知識普及のための指導及びパンフレット配布【日赤健康管理センター】
	外部からの依頼を受け、運動指導士・保健師・管理栄養士で、地域・職域・健康保険組合・共済組合の方を対象にウォーキング・筋トレ指導等の教室・セミナーに携わる。【日赤健康管理センター】
	健康支援サイト「日赤hara回ナビ」を制作し、登録者に健康情報を配信した。(再掲(2)循環器疾患)【日赤健康管理センター】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、食生活の見直しを図り、糖尿病等予防に関する研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
	労働安全衛生法に定める年1回の定期健康診断の事業場での確実な実施を指導している。また、特定化学物質障害予防規則等に定める有害業務に従事する労働者に6ヶ月毎に特殊健康診断の確実な実施を指導している。特に9月を強化月間として周知広報を行っている。(再掲(1)がん)【労働基準監督署】
	各種の健康フェア等へ参加し、市民に対しての食事の重要性の普及啓発をかねた食事、栄養相談を行っている。食と健康フェア2014(栄養相談延360人)(健康フェスティバル栄養相談362人)(再掲(2)循環器疾患)【県栄養士会】

2	<p>歯科治療の際、進行した歯周病や治癒が悪い方の場合、糖尿病の検査を勧める。【市歯科医師会】</p> <p>高血糖の未受診者に対する受診奨励【日赤健康管理センター】</p>
3	<p>医科と連携して、糖尿病患者の早期発見につとめる。 糖尿病治療と歯周病治療に相互に介入することで、それぞれの治療効果を向上させる。【市歯科医師会】</p> <p>血糖高値者へ文書及び電話による受診勧奨を実施【協会けんぽ】 (対象者) 一次勧奨対象者:空腹時血糖126mg/dl以上HbA1c6.5%(NGSP値)以上 二次勧奨対象者:空腹時血糖160mg/dl以上HbA1c8.4%(NGSP値)以上 (方法) 一次勧奨対象者へは文書、二次勧奨対象者へは2回の文書または1回文書+電話による勧奨を行った。 (勧奨人数) 一次勧奨:2,423人 二次勧奨:701人</p> <p>医療保険者からの委託で糖尿病重症化予防セミナーを実施した。【日赤健康管理センター】</p> <p>栄養士不在のクリニックにおける栄養食事相談業務を行い重症化を防ぐための業務を行っている。【県栄養士会】</p>
4	<p>クリニック(栄養士不在)において糖尿病の食事、栄養指導を行うと共に、市民に対する食事、相談の場を各健康フェア等で参加して実施、連携を図っている。【県栄養士会】</p> <p>健診結果データの他支部との比較等により熊本支部の特徴に基づき高血糖に着目してデータヘルス計画を策定【協会けんぽ】</p>

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・本事業の協力医を増やし、周知し、充実させていく。【市歯科医師会】 ・要医療者への受診勧奨を強化する。受診確認後、受診継続のための事後フォローまで行う予定【協会けんぽ】 ・手軽にできるウォーキング・ジョギングをする啓蒙活動を図る。そのためにイベント日を設け、糖尿病の減少に向けた活動を行う【北区内】
---------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

	具体的な内容等																														
	<p>平成24年度から11月の世界糖尿病デーに併せた啓発を実施 糖尿病啓発イベント(1回・延べ556人)</p> <p>ラジオや市政だより、懸垂幕等を活用した啓発</p> <p>若い世代をターゲットにした健康増進、肥満改善の支援として、携帯電話やスマートフォン等を活用しメールマガジンやフェイスブックで健康情報を発信</p> <p>「健康づくりできます店」を多くの市民の方々に活用してもらうためスタンプラリーを開催した(再掲(2)循環器疾患)</p>																														
1	<p>幼児健診や、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援、糖尿病予防教室等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、糖尿病やその予防等に関する情報提供を実施</p> <p>地域における啓発実績 (94校区中 62校区 計336回 9,250人)※その他は区単位、ブロック単位での啓発数</p> <table border="1"> <tr> <td>中央区(10校区)</td> <td>29回</td> <td>899人</td> <td>その他</td> <td>8回</td> <td>404人</td> </tr> <tr> <td>東区(12校区)</td> <td>25回</td> <td>728人</td> <td>その他</td> <td>3回</td> <td>127人</td> </tr> <tr> <td>西区(16校区)</td> <td>49回</td> <td>854人</td> <td>その他</td> <td>86回</td> <td>2,246人</td> </tr> <tr> <td>南区(14校区)</td> <td>73回</td> <td>1,176人</td> <td>その他</td> <td>15回</td> <td>321人</td> </tr> <tr> <td>北区(11校区)</td> <td>45回</td> <td>1,402人</td> <td>その他</td> <td>3回</td> <td>1,093人</td> </tr> </table> <p>集団健診の機会に糖尿病の予防に関する情報提供や特定健診の受診を啓発 南区・富合、城南地域等で実施(125回 2,549人) 北区・植木地域で実施(11回 910人)</p> <p>校区単位の健康まちづくりの取り組みにおける健康づくりコーナー等において、「けんつく会(健康をつくるボランティア医師の会)」の協力のもと簡易血糖検査器を活用した住民への啓発を行った。</p> <p>東区健康フェスタの健康づくりコーナーにおいて、生活習慣病ネットワーク連絡会企画会議メンバー医師の協力のもと簡易血糖検査器を活用した住民への啓発を行った。</p>	中央区(10校区)	29回	899人	その他	8回	404人	東区(12校区)	25回	728人	その他	3回	127人	西区(16校区)	49回	854人	その他	86回	2,246人	南区(14校区)	73回	1,176人	その他	15回	321人	北区(11校区)	45回	1,402人	その他	3回	1,093人
中央区(10校区)	29回	899人	その他	8回	404人																										
東区(12校区)	25回	728人	その他	3回	127人																										
西区(16校区)	49回	854人	その他	86回	2,246人																										
南区(14校区)	73回	1,176人	その他	15回	321人																										
北区(11校区)	45回	1,402人	その他	3回	1,093人																										

2	<p>糖尿病の早期発見のため、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、特定健診の受診啓発を実施。(再掲(2)循環器疾患)</p> <p>(94校区中 93校区 計 575回 18,363人)</p>
	<p>特定健診受診率向上のため、医療機関と治療中者に対する受診勧奨の取り組み強化、協会けんぽとの共同事業の実施(再掲(2)循環器疾患)</p>
3	<p>糖尿病の要治療者に対して保健師や栄養士による受診勧奨を実施(文書や電話、家庭訪問等)</p> <p>・受診勧奨実績:特定健診受診者でHbA1c6.9%以上かつ糖尿病未治療者284人</p>
4	<p>区単位で地域のかかりつけ医と区役所等との連携強化を図るため生活習慣病対策ネットワーク連絡会を開催(再掲:(2)循環器疾患)</p> <p>開催実績 5回 医療機関76人、市関係104人、計180人</p>
	<p>熊本県や熊本大学代謝内科等、関係機関との連携強化を図ると共に、庁内のCKD保健指導プロジェクト会議等を開催</p>

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<p>集団健診の結果説明会での啓発を、従来の植木地区に加え、新たに清水、龍田、北部地区での集団健診についても実施する。(再掲(2)循環器疾患)</p>
---------	-----------------------------------------------------------------------------

1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

取り組み項目	(4)CKD(慢性腎臓病)			
指標項目	11 新規人工透析者数の減少	基準値	実績値	目標値
		H23	H26	H25
		273人	251	200人
取り組み施策	概 要			
1 発症予防	CKDの発症予防のためCKDやその予防法について正しい理解(知識や技術等)の普及啓発を図る。			
2 早期発見	CKDやCKDの危険因子である糖尿病や高血圧などの早期発見のために、特定健診・職域での定期健診等の受診率向上や保健指導の徹底を行う。			
3 重症化防止	要医療者(腎機能悪化者、糖尿病者、重症高血圧者など)へ医療機関受診勧奨を行い、CKDや心血管疾患などの予防、進展抑制を図る。			
4 推進体制の強化	地域保健医療の連携体制、職域や地域コミュニティー等においてCKDの発症予防から悪化防止までの推進体制の整備を図る。			

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	当ささえりあで開催している「15分続けて歩こうプロジェクト」において、地域役員(自治会長、社協長、民生委員さんなど)に、体内脂肪、筋肉量などの検査(インボディ、スカイテン)を実施し、効果を測定した。現在も歩くことを続け、体重の減少、血糖値の減少などを目標に続けている方が増えてきている。(再掲(2)循環器疾患)【地域包括支援センター連絡協議会】
	医療保険者主催のセミナーにおいてCKDの病態やその予防法、及びメタボリックシンドロームとの関連について講演を行った。【日赤健康管理センター】
	外部からの依頼を受け、運動指導士・保健師・管理栄養士で、地域・職域・健康保険組合・共済組合の方を対象にウォーキング・筋トレ指導等の教室・セミナーに携わる。【日赤健康管理センター】
	熊本日日新聞暮らし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、糖尿病に関する記事を掲載(再掲(2)循環器疾患)【協会けんぽ】
	労働安全衛生法に定める年1回の定期健康診断の事業場での確実な実施を指導している。また、特定化学物質障害予防規則等に定める有害業務に従事する労働者に6ヶ月毎に特殊健康診断の確実な実施を指導している。特に9月を強化月間として周知広報を行っている。(再掲(1)がん)【労働基準監督署】
	各種健康フェア等へ参加し、市民に対して食事の重要性の普及啓発をかねた栄養、食事相談を行っている。(再掲(2)循環器疾患)【県栄養士会】
	CKDのパンフレットを配布し予防及び健診を促す活動を実施(食と健康フェア、健康フェスティバル)【南区内・他】
2	ウォーキングやジョギング(わくわく健康塾)、体操等をとおしてCKDの重症化予防を促す活動を実施【南区内・他】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、CKDの危険因子である糖尿病や高血圧等に関する研修会を実施【熊本産業保健総合支援センター】
3	各医療機関の管理栄養士により栄養指導を実施されている。【県栄養士会】
	人口透析にかかる分析を実施し、健康づくり推進協議会の場で報告するとともに、今後の重症化予防対策に活用することとした。【協会けんぽ】
4	栄養士不在のクリニックに対して管理栄養士を派遣し栄養、食事指導を行いCKDの重症、悪化予防できる体制をとっている。【県栄養士会】

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	H26年度の分析結果から、人口透析導入の時期を遅らせるため、独自に基準を設けた対象者へ受診勧奨を行う。受診確認後、受診継続のためのフォローまで行う予定。【協会けんぽ】
---------	-------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	<p>市政だよりやCKDホームページ、懸垂幕や、イベントや講演会などを通じた啓発(再掲(3)糖尿病)</p> <p>若い世代をターゲットにした健康増進、肥満改善の支援として、携帯電話やスマートフォン等を活用しメールマガジンやフェイスブックで健康情報を発信(再掲(3)糖尿病)</p> <p>「健康づくりできます店」を多くの市民の方々に活用してもらうためスタンプラリーを開催した(再掲(2)循環器疾患)</p> <p>特定健診の結果、CKD予備群の方を対象に、各区役所でCKD予防教室を開催 対象者1,101人中345人CKD予防教室参加 受講率31.3% *未受講者には個別健康相談や電話等によりフォロー実施</p> <p>幼児健診や、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、CKDやその予防等に関する情報提供を実施</p> <p>地域における啓発実績 (94校区中 73校区 計293回 10,643人)※その他は区単位、ブロック単位での啓発数 中央区(11校区 19回 563人 その他 12回 431人) 東区(17校区 46回 1,114人 その他 6回 408人) 西区(16校区 50回 1,082人 その他 48回 1,299人) 南区(17校区 44回 896人 その他 13回 263人) 北区(12校区 51回 3,271人 その他 4回 1,316人)</p> <p>集団健診の機会にCKDの予防に関する情報提供や特定健診の受診を啓発 南区:富合、城南地域等で実施 (184回 3,500人) 北区:植木地域で実施 (11回 910人)</p> <p>減塩食実践講座を実施(2回28人)</p> <p>食事で防ぐ高血圧教室を実施</p>
	<p>CKDの予防や早期発見のため、子育てサークル支援や高齢者健康サロン支援等の保健事業、校区単位の健康まちづくりの取り組みを通して、循環器疾患や糖尿病の予防、特定健診の受診啓発を実施(再掲(2)循環器疾患、(3)糖尿病)</p> <p>・地域における循環器疾患の啓発実績 (94校区中 82校区 計 400回 9,645人)</p> <p>・地域における糖尿病の啓発実績 (94校区中 62校区 計336回 9,250人)</p> <p>・地域における特定健診の啓発実績 (94校区中 93校区 計 575回 18,363人)</p> <p>特定健診受診率向上のため、医療機関と治療中者に対する受診勧奨の取り組み強化、協会けんぽとの共同事業の実施(再掲(2)循環器疾患)</p>
	<p>CKDの未治療者に対して保健師や栄養士による受診勧奨を実施(文書及び電話等)</p> <p>・受診勧奨実績:特定健診受診者で腎専門医レベルかつ未治療者308人</p>
	<p>かかりつけ医から腎臓専門医への患者紹介件数(CKD病診連携実績)</p> <p>平成26年度162件(累計1,275件)</p>
	<p>CKD対策推進会議(市医師会、公的病院、健診機関、市民団体等で構成)で各関係機関との協働による取り組みの推進(60団体 87人参加)</p> <p>区単位で地域のかかりつけ医と区役所等との連携強化を図るため生活習慣病予防ネットワーク連絡会を開催(再掲:(2)循環器疾患、(3)糖尿病)</p> <p>開催実績 5回 医療機関76人、市関係104人、計180人</p>
	<p>かかりつけ医と専門医とのCKD病診連携の推進を図るため、かかりつけ医説明会を医師会と協働で実施(2回 229人) CKD病診連携医数(内科医標榜67.9%) 334人</p> <p>かかりつけ医と専門医との連携を図るためのプロジェクト会議開催(4回)</p> <p>かかりつけ医と専門医等によるプロジェクト会議により病診連携システムの効果検証等の実施</p>
	<p>CKDの保健指導等を円滑に実施するため、関係課を集めたCKD対策推進保健指導プロジェクトを開催(3回)</p> <p>事業開始後6年を経たの検証・事業評価を行い、第2ステージに向けて今後の方針について検討を行う。</p>

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<p>・医療機関への働きかけの強化として、特定健診実施機関以外にも、眼科および整形外科へ特定健診受診および重症化予防啓発ポスターの掲示を依頼。(再掲:(2)循環器疾患)</p>
---------	------------------------------------------------------------------------------------------

2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

取り組み項目	(1)こころの健康					
指標項目	12	自殺者の減少(人口10万人当たり)	基準値	実績値	目標値	
			H17	H25	H28	
				19.3	15.9	15.4
	13	睡眠を十分にとっている市民の割合	基準値	実績値	目標値	
			H24	H26	H30	
				53.3%	54.0%	68.7%
14	ストレスをためないよう気分転換を図っている市民の割合	基準値	実績値	目標値		
		H24	H26	H30		
			51.1%	51.3%	65.7%	
取り組み施策		要				
1	早期発見や啓発等	こころの健康相談などを通して、うつ病の早期発見や早期治療につなげるとともに、市民への精神疾患についての啓発を行う。				
2	子どもたちのこころの健康	子どもたちのこころの健康保持と子どもたちを取り巻く関係者への児童思春期の精神保健等の理解の普及を図る。				
3	自殺対策	自殺対策として包括相談会や啓発等を行うとともに、関係者間の連携強化を図る。				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	県との共催により「うつ病に対する医療連携のための研修会」を県内各圏域で開催。うつ病の早期発見や早期治療につなげるために、一般かかりつけ医と精神科医との医療連携体制の強化を図った。【熊本県精神科協会】
	支部ホームページ健康インフォメーションで、熊本産業保健総合支援センターが実施する研修会を案内【教会けんぽ】
	熊本日日新聞暮らし面で「働き盛りの健康が危ない」と題しストレスに関する記事を掲載(再掲(2)循環器疾患)【協会けんぽ】
	企業・事業場からの依頼を受けてこころの健康に関する講話を行った。【日赤健康管理センター】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、メンタルヘルスクア関連の研修会を開催した。【熊本産業保健総合支援センター】
	事業場の要請による個別訪問を実施し、メンタルヘルスに関する取り組み支援を行った。【熊本産業保健総合支援センター】
3	労働者の心の健康の保持増進のための指針(平成18年3月31日付け健康保持増進のための指針公示第3号)により事業場を指導している。また、H27年12月から50人以上の事業場に義務づけがなされる「ストレスチェック」について周知広報を実施した。【労働基準監督署】
	熊本県精神保健福祉協会が実施している、救急医療で救命された自殺未遂者を適切な精神科医療に繋げるためのネットワークである「くまもと自殺予防医療サポートネットワーク事業」に支援を行った。【熊本県精神科協会】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、職場における自殺の予防と対応の研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】

2. 関係機関団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・H27.12月から実施される職場においてのストレスチェック実施に向けて受入れ体制を整備中【日赤健康管理センター】 ・ストレスチェックの義務化に伴い周知広報のための説明会を11月までに複数回実施する。また、実施努力義務である50人未満の事業場に対しては、助成金制度に対する周知を行う。【労働基準監督署】 ・楠中、三校一園(楠中、楡木小、楠小、楠幼稚園)地域懇談会での講演会が岡崎光洋氏(くまもと心理カウンセリング代表)によって行われた。(7/11実施)【北区内】
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	市民への精神疾患についての啓発として、精神保健福祉普及運動やホームページを活用した啓発、研修会や相談会でのパンフレット配布、こころの健康づくり講演会等を実施
	精神科医師・心理士・保健師等による相談を実施(こころの健康センター相談件数 延べ7,885件、区役所 2,075件)
	うつ病等の精神疾患の早期発見・早期治療を図るため、「かかりつけ医等心の健康対応力向上事業」を実施(県との合同事業)
	平成26年10月からひきこもり支援センター「りんく」を設置し、対象者及び家族の支援を強化した。
2	・学校におけるこころの健康についての環境整備や早期発見の取り組みとして、児童生徒や保護者が悩み等を話せるようにスクールカウンセラー、心のサポート相談員の配置やスクールソーシャルワーカー、ユア・フレンドを派遣(スクールカウンセラー相談数 延べ3,829件、心のサポート相談員対応件数 延べ 12,175件、スクールソーシャルワーカー派遣数 493件、ユア・フレンド派遣学校数 62校) ・昨年度に引き続き、スクールカウンセラーを拠点中学校21校に配置し、全中学校42校に対応した。また、スクールソーシャルワーカーについても1人増員して6人体制で対応した。
	いじめの未然防止、早期発見に向け、実態を把握し早期に解決するため小中学校の児童生徒を対象に、毎月1回「きずなアンケート」及び、高校も含めた年1回「心のアンケート」を実施
	・急激な環境の変化等による精神的な悩みや不安等を抱える児童生徒の心のケアに対して、緊急対応相談員(臨床心理士)の派遣を実施。(対応件数38件) ・また、緊急対応相談員、弁護士によるいじめ等の問題行動等への相談・支援を実施(対応件数7件)
	思春期精神保健福祉研修会(1回 参加者210人)や自殺予防研修会(1回参加者130名)を開催
3	自殺予防週間、アルコール関連問題啓発週間に伴う啓発イベントや、自殺対策強化月間において、パネル展示等を実施
	自殺予防週間等を活用し、精神科医師・弁護士等による包括相談会(相談件数 延べ78件)や、九州・沖縄・山口一斉電話相談(相談件数179件)を実施
	保健・医療・福祉・教育・労働・警察等の関係機関との連携強化を図ることを目的に自殺対策連絡協議会を開催
	自死遺族支援を考える講演会(1回 参加者34名)の開催。自死遺族グループミーティング(7回 延べ参加者11名)を実施。また、ゲートキーパー養成研修(2回参加者38名)を開催。

H27年度は上記内容を継続して取り組む予定

2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

取り組み項目	(2) 次世代の健康				
指標項目	15	全出生数中の低出生体重児の割合の減少	基準値	実績値	目標値
			H22	H24	H34
			9.2%	10.2%	減少傾向へ
	16	肥満傾向にある子どもの割合の減少 (小学校5年生の中等度・高度肥満傾向児の割合)	基準値	実績値	目標値
			H23	H26	H34
			男子 3.98%	4.57%	減少傾向へ
			女子 2.92%	2.95%	減少傾向へ
	17	運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合の増加 (週に3日以上運動習慣のある小学5年生)	基準値	実績値	目標値
			H23	H26	H34
			男子 66.3%	63.6%	増加傾向へ
			女子 41.4%	41.7%	増加傾向へ
	18	子どもたちが健やかに成長していると感じる市民の割合	基準値	実績値	目標値
H24			H26	H30	
19	子育てが楽しいと感じる市民の割合	基準値	実績値	目標値	
		H24	H26	H30	
		83.8%	79.6%	90.0%	
取り組み施策	概要				
1	早産予防	低出生体重児の減少を図るため妊娠前や妊娠期の心身の健康づくりを推進する。			
2	子どもの健康的な生活習慣の獲得	子どもの健やかな発育や生活習慣の形成のため、健康支援や子育て支援の充実を図るとともに、保育園や幼稚園、学校等、関係機関との連携強化を図る。			
3	子育てしやすい環境づくり	子育て中の親子が地域の中で安心して暮らしているために、地域の子育て情報の提供や親子同士の交流を行うなど、地域での子育て支援の充実を図る。			
4	思春期等への支援	性感染症の予防など思春期等における健康づくりを行う。			

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	熊本市在住の妊婦さんを対象に、無料妊婦歯科健診している。妊婦さんの口腔管理能力の向上を図り、妊婦さん自身及び生まれてくる子どもの口腔疾患や低体重児の出生予防とその健康増進を図る。【市歯科医師会】
2	子どもと高齢者、地域の方と世代間交流を目的として「江津湖歩いとランド」を開催。子ども親世代が高齢者、地域の方と交流することで育てやすい環境づくりを目指したい【地域包括支援センター連絡協議会】
	健康保険組合・共済組合の家族を対象に、運動の重要性や楽しさを伝えるために、ストレッチ体操やダンス等を交えた運動プログラムを実施【日赤健康管理センター】
	当ささえりあで開催している「健康づくり支援者研修会」に若い世代も呼びかけ、開催している。青少協、体協、PTAなどにも呼びかけている。【地域包括支援センター連絡協議会】
	子育て支援の場として就園前の幼児を対象に各幼稚園では「未就園児つどいの会」を設けなごやかな環境の中で親子の交流を図っている【私立幼稚園協会】
	学校健康教育事業部の栄養士により栄養教育の中での食育活動を実施している【県栄養士会】
	北区保健子ども課の協力を得て楡木校区民生委員児童委員によるニッキスマイルクラブ(子育てサークル)を毎月第3水曜日に開催している【北区内】
	楡木小学校PTA主催で校区各種団体とで年始に鏡餅開きの行事を行い子ども達及び住民の健康を祈念している。他にも伝承遊びも行っている【北区内】
3	クリスマス親子料理教室(参加31人)において、子育て中の親子に対し情報の提供を行い食に対して興味をもってもらうと共に親子同士の交流を図る。【県栄養士会】

H27年度は上記内容を継続して取り組む予定

2. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	<p>妊娠中の母体を保護し疾病や異常を予防し、健やかに生み育てるよう援助するため、妊産婦健康相談を実施。相談日以外でも、専門職が対応している(計 相談日3,449件、相談日外:3,993件) 中央区(相談日:1,133件、相談日外:847件)、東区(相談日:893件、相談日外:1,230件) 西区(相談日:341件、相談日外:480件)、南区(相談日:601件、相談日外:682件) 北区(相談日:481件、相談日外:754件)</p> <p>医療機関との連携を図るとともに早産予防についての情報提供・情報共有をするために「出産をめぐる赤ちゃんとお母さんの安心づくり地域連絡会」を産科医療機関及び県助産師会等と連携して実施</p>
2	<p>「熊本市子どもの食育推進ネットワーク」を設置し、乳幼児期の子どもたちとその保護者の食育に携わる保育園・幼稚園・地域・行政等の関係機関の担当者が情報を共有化し、互いに連携協力しながら地域で、食育活動を展開するため、全体研修会(2回 404人)の他、各区役所にて地域研修会(43回 566人)を実施</p> <p>地域の子育て支援を、地域で考え、実践するしくみを作り、活動を支援するため、母子保健研修会や各区役所管内の子育て支援ネットワークにおいて研修会等を開催(計 94校区:21回、883人) 中央区(19校区:5回、253人)、東区(18校区:5回、193人)、西区(16校区:2回、86人)、南区(21校区:3回、106人)、北区(20校区:6回、254人)</p> <p>母親の育児不安を解消し、子どもの健康の保持増進を図るため、育児相談を実施</p>
3	<p>地域の中で子どもたちが健やかに育ち、親も安心して楽しく子育てができることを目的とした子育てサークル支援の実施。 子育てサークル支援数(計 90箇所) 中央区(21箇所)、東区(25箇所)、西区(13箇所)、南区(12箇所)、北区(19箇所)</p> <p>校区の子育て支援ネットワークの充実等を目指し、各区役所管内の子育て支援ネットワークにおいて研修会を開催(再掲 計 94校区:21回、883人)</p> <p>子育て世代の保護者の孤立化を防ぐとともに健やかに育成できる環境整備を図るため、こんにちは赤ちゃん事業による訪問の実施 ※こんにちは赤ちゃん事業については、身近な地域での継続的な子育て支援につながるよう地域組織による第1子の訪問についても適宜進めていく</p> <p>各区役所において、市内20か所の子育て支援センターと連携を図り、親育ち支援事業や育児教室、地域の子育てサークル等を協力し実施(子育てほっとステーションの中で相互の情報共有も図りながら地域での子育て支援を行っている)</p>
4	<p>中・高生と母子の交流会を各子育て支援センターや子育て支援ネットワークで行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無料匿名で利用できるエイズ検査・相談の実施(相談数1,658件 検査数1,571件:年度) ・中学3年生以上を対象にエイズ・性感染症予防に関する出前講座を実施(12校2,259人) ・高校・専門学校へ産婦人科医・泌尿器科医を派遣し、エイズ・性感染症予防講演会を実施(13校4,924人) ・高校文化祭・大学学園祭でのエイズ啓発キャンペーンにて、大学生ボランティア及び高校保健委員によるピアエデュケーション(仲間教育)やクイズアンケートを実施(高校1校1回、大学3校3回) ・街頭でのエイズ啓発キャンペーンを学生を中心としたボランティアグループとの協働により実施。若い世代に身近な問題として捉えてもらうよう、学生らによるファッションショー形式の啓発や若者向けの啓発カードの作製・配布(250枚)を行った。(11月)

3. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	校区子育てネットワークの取り組みとして、妊娠期の両親学級を開催する校区あり。
---------	----------------------------------------

2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

取り組み項目		(3)働き盛り世代の健康				
指標項目	7	特定健康診査の受診率・特定保健指導実施率の向上	基準値		実績値	目標値
			H23		H25	H29
			診査受診率	25.8%	26.8%	60.0%
指導実施率	16.8%	15.7%	60.0%			
取り組み施策		概 要				
1	若いころからの健康意識の醸成	校区における健康まちづくりの推進組織と職域保健、その他の関係団体、行政等が連携を図り、働き盛りの若い世代への健康に関する普及啓発を行う。				
2	生活習慣病の発症予防	関係機関が連携し、特定健康診査やがん検診等の必要性や受診方法等についての情報提供を行い、生活習慣病の発症予防に取り組む。				
3	働き盛り世代のこころの健康	市民へうつ病等の精神疾患に関する啓発を進めるとともに、ストレスの原因となる長時間労働や失業等の社会要因に対しては労働関係機関との連携を図り、働き盛りのこころの健康づくりを進める。				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

具体的な内容等

1	当ささえりあで開催している「15分続けて歩こうプロジェクト」活動を続けることで、歩くこと、運動することを生活習慣の中に意識付けている。歩いている人が増えている。【地域包括支援センター連絡協議会】
	熊本大学政策創造研究教育センター河村准教授グループ開発の健康支援ロボット「ロボリーマン」を軸とした健康づくりプログラムの試行【協会けんぽ】
	医療保険者や企業・事業場からの委託で、若年者の保健指導を行った。【日赤健康管理センター】
	外部からの依頼を受け、運動指導士・保健師・管理栄養士で、地域・職域・健康保険組合・共済組合の方を対象にウォーキング・筋トレ指導等の教室・セミナーに携わる。【日赤健康管理センター】
	機関紙によるロコモ予防に関する情報提供【日赤健康管理センター】
2	労働安全衛生法に定める年1回の定期健康診断の事業場での確実な実施を指導している。また、特定化学物質障害予防規則等に定める有害業務に従事する労働者に6ヶ月毎に特殊健康診断の確実な実施を指導している。特に9月を強化月間として周知広報を行っている。(再掲(1)がん) また、年1回のストレスチェックの実施により、労働者自身が自分のストレスの度合いを認識し、医師の面接指導を受けるように促す。【労働基準監督署】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、生活習慣病に関する研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
	協会けんぽの被保険者本人の健診は35歳から受診できるため、特保対象年齢前(35歳以上40歳未満者)に対しても、積極的に保健指導を行った。【協会けんぽ】
	熊本市と連携し、市役所本庁で熊本市国保加入者および協会けんぽ被扶養者の特定健診を実施(協会けんぽ:32名 熊本市国保:46名 後期高齢者:21名受診)【協会けんぽ】
	東区と連携し、熊本市国保加入者および協会けんぽ被扶養者の特定健診、さらに協会けんぽ被保険者本人の健診を実施した(協会けんぽ被保険者:108名受診)【協会けんぽ】
	熊本日日新聞くらし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、記事を掲載(全24回中、関連記事9回)(再掲(2)循環器疾患)【協会けんぽ】
	医療保険者からの委託で特定保健指導を実施し、次回の健診についても受診勧奨している。【日赤健康管理センター】
	熊本商工会議所会報誌『商工ひのくに』(平成26年6月号)にて、協会けんぽの協力を得ながら、生活習慣病の注意喚起を行い、特定保健指導の利用を促すなど、会員事業所に向けた周知を図った。【熊本商工会議所】
	各種イベントへ参加し、市民に対しての食事の重要性の普及啓発を行いながら食事、栄養相談を行う。(食と健康フェア2014栄養相談延360人)(健康フェスティバル栄養相談362人)(再掲(2)循環器疾患)【県栄養士会】
	企業・事業場からの委託でこころの健康に関する講話を実施した。健診後の指導の際に必要なに応じてセルフケアや相談窓口の情報提供を行った。【日赤健康管理センター】

2. 関係機関・団体における左記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスチェック導入に伴う健康相談体制の構築(再掲(1)こころの健康)【日赤健康管理センター】 ・くまもとスマートライフプロジェクト”特定健診・がん検診等受診率向上”に他企業とコラボし、提案書提出中である。(再掲(2)循環器疾患)【日赤健康管理センター】 ・楽しく体を動かすことで気分転換をはかる機会をつくる。仕事で忙しくても健診を受けることの重要性を伝える活動をする。【南区内・他】 ・楡木校区健康まちづくりの中で、子ども会・PTAで連携し30～40歳の健康チェック及び高齢者を含む交流事業を計画する【北区内】
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	協会けんぽとの健康づくり協定に基づく取り組みを実施 ・地域の保健活動や校区単位の健康まちづくりの活動をより効果的に展開するため、協会けんぽとの連携により、特定健診結果や医療費の分析等を実施 ・協会けんぽの広報ツールを活用し、働きざかり世代へ健康に関する情報提供を行った(心の健康、生活習慣病予防等)
	校区単位の健康まちづくりの中で、PTA等との連携を図り、健康チェックや生活実態調査、親子学習会等を実施(西区保健子ども課)(東区保健子ども課)
	子宮頸がん、乳がん、大腸がん検診啓発パンフレットを効果的な広報ツールとするため関係機関(協会けんぽ、がん協定企業や大学生等)とワーキンググループを設置し、内容を検討した上で作成した(再掲:(1)がん)
	がん対策を推進する企業2社とがん対策企業等連携協定を締結(H26.7.2)(再掲:(1)がん)
2	地域の会議や健康教育等において、がん検診や特定健診の受診勧奨を実施 ・生活習慣病ネットワーク連絡会において、医療機関と校区の健康づくり組織の代表者と行政が協議し、特定健診強化月間を実施した。 ・松尾北校区において、健康づくり組織が集団健診を企画し実施した。
	健康増進法に基づく40歳以上の方への「健康手帳」の活用を多くの市民に勧めるため、市政だよりやラジオ、校区単位の健康まちづくりの取り組みや健康づくりに関するイベント、検診等多くの機会を捉え交付を実施
	市民が生活習慣を振り返り生活習慣病を予防するために、健康チェックやアンケートを実施し情報を提供
3	市民への精神疾患についての啓発として、精神保健福祉普及運動(パネル展示)、講演会等でのパンフレット配布、ホームページを活用した啓発の実施 ・市民への講演会(3回)参加者:303人(こころの健康づくり講演会、精神障がいピアサポート講演会、精神障がい者就労支援講演会) ・高齢者施設職員等へのストレスに関する講話(1回)参加者:65人

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	区内の医療機関と連携し、風邪等で単発で受診した40～50代の市民に対し特定健診勧奨を行う取り組みを開始する。
---------	--------------------------------------------------------

2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

取り組み項目	(4) 高齢者の健康					
指標項目	20	65歳以上の元気な高齢者の割合	基準値	実績値	目標値	
			H22	H26	H34	
				80.6%	78.3%	現状維持
	21	認知機能低下ハイリスク高齢者の把握率の向上	基準値	実績値	目標値	
			H22	H26	H26	
				0.4%	0.25%	3.0%
	22	ロコモティブシンドローム(運動器症候群)を認知している市民の割合の増加	基準値	実績値	目標値	
			H27	H27	H34	
				短期評価時に把握	50.3%	80.0%
	23	二次予防事業利用者の見込み	基準値	実績値	目標値	
			H23	H26	H26	
				1,048人	1,515人	2,788人
取り組み施策		概 要				
1	元気高齢者の増加	高齢者の健康づくりに関する食や運動(ロコモティブシンドローム予防)、口腔保健などの情報提供等を行い、高齢者の健康増進を図る。				
2	介護予防	要介護状態にならないよう、介護予防に関する支援体制の充実等を図る。				
3	認知症高齢者支援	認知症の早期発見や早期治療を推進するとともに、認知症高齢者や家族の相談体制の整備等を図る。				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	各ささえりあで、転倒予防教室、健康体操教室、認知症予防教室などを開催し、予防に力を入れている。【地域包括支援センター連絡協議会】
	当ささえりあで開催している「15分続けて歩こうプロジェクト」活動を続けることで、歩くこと、運動することを生活習慣の中に意識付けている。歩いている人が増えている。(再掲(3)働き盛り世代の健康)【地域包括支援センター連絡協議会】
	地域・職域からの依頼を受け、ロコモ予防・運動機能向上を目的とした高齢者筋力トレーニング教室やストレッチ体操等を実施【日赤健康管理センター】
	機関紙によるロコモティブシンドローム予防に関する情報提供【日赤健康管理センター】
	労働安全衛生法に定める年1回の定期健康診断の事業場での確実な実施を指導している。また、特定化学物質障害予防規則等に定める有害業務に従事する労働者に6ヶ月毎に特殊健康診断の確実な実施を指導している。特に9月を強化月間として周知広報を行っている。(再掲(1)がん)【労働基準監督署】
	個人宅などで運営しているサロンで、食事、会話などを通じて高齢者の居場所を提供、孤独化も防ぎ地域での生き活きとした暮らしを支援した。【中央区内】
	ふれあい・いきいきサロンや老人会の集まり、包括主催の介護予防教室にて理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士等の専門職がサロン運営者や包括の意向に沿って情報提供を行った。【中央区内】
	各地域での高齢者サロン、老人会において保健師の指導や健康体操・介護予防体操の実施。健康づくり推進協議会主催健康講座「認知症予防について」の実施【東区内】
	老人会の定例会を毎月実施し、血圧測定と季節に応じた簡単な講話を行っている。【北区内】
	通所型介護予防事業で口腔ケアを実施【市歯科医師会】
2	サロン活動などで基本チェックリストを活用し、二次予防者の発掘を行っている。【地域包括支援センター連絡協議会】
	当センター内の会員制運動療法施設にてロコモ・改善のための運動指導を実施【日赤健康管理センター】
	健康教室などで行われる運動で、筋力低下予防を実践した。【中央区内】
	包括による介護予防の取り組み体制に法人の専門職を人材として派遣した。【中央区内】
	認知症予防研究会への職員参加(学術総会1回、勉強会2回 参加約10名)【日赤健康管理センター】

3	託麻原小学校、PTAと連携し「安心メールネットワーク」を整え、認知症が疑われる徘徊者を早期発見、保護をする体制を維持した。【中央区内】
	ふれあい・いきいきサロンでの認知症の発見につながる情報提供やその後の相談窓口、対応窓口の広報を行っている。【中央区内】
	地域で見守りを実施【東区内】

2. 関係機関・団体における左記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・機関紙にて認知症に関する記事掲載予定【日赤健康管理センター】 ・地域リハビリテーション広域支援センターを軸に住民(高齢者)の意向に沿った形での健康づくりや介護予防活動実施予定。中央区の医療機関、介護サービス事業所のリハビリ専門職の組織横断的なネットワーク体制を模索していく。【中央区内】 ・ロコモ体操と健くま体操の実施【南区内・他】 ・認知症、生活習慣病対策として地域包括支援センターの協力を得て上記1のような取り組みを校区全体へ広めていきたい【北区内】
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等																															
1	介護予防に資する基本的な知識の普及啓発を図るため、パンフレットの作成・配布(パンフレット作成60,000部)																														
	<p>自治会や校区社会福祉協議会、民生児童委員等の関係機関との協働により、高齢者健康サロン等を実施。高齢者健康サロンやその他老人会、地域の会議等で栄養指導や運動(ロコモ予防)、口腔機能維持等についての健康教育を実施</p> <p>地域における介護予防※・ロコモティブシンドロームに関する啓発実績 (94校区中 78校区 計351回 9,423人)※その他は区単位、ブロック単位での啓発数</p> <table border="1"> <tr> <td>中央区(18校区)</td> <td>82回</td> <td>2,864人</td> <td>その他</td> <td>7回</td> <td>481人</td> </tr> <tr> <td>東区(17校区)</td> <td>66回</td> <td>1,785人</td> <td>その他</td> <td>4回</td> <td>147人</td> </tr> <tr> <td>西区(15校区)</td> <td>47回</td> <td>960人</td> <td>その他</td> <td>1回</td> <td>24人</td> </tr> <tr> <td>南区(17校区)</td> <td>91回</td> <td>1,733人</td> <td>その他</td> <td>17回</td> <td>346人</td> </tr> <tr> <td>北区(11校区)</td> <td>32回</td> <td>1,028人</td> <td>その他</td> <td>4回</td> <td>55人</td> </tr> </table> <p>※高齢者健康サロン等による体力測定の実施と評価・分析(おたっしゅ21健診)も実施</p>	中央区(18校区)	82回	2,864人	その他	7回	481人	東区(17校区)	66回	1,785人	その他	4回	147人	西区(15校区)	47回	960人	その他	1回	24人	南区(17校区)	91回	1,733人	その他	17回	346人	北区(11校区)	32回	1,028人	その他	4回	55人
	中央区(18校区)	82回	2,864人	その他	7回	481人																									
東区(17校区)	66回	1,785人	その他	4回	147人																										
西区(15校区)	47回	960人	その他	1回	24人																										
南区(17校区)	91回	1,733人	その他	17回	346人																										
北区(11校区)	32回	1,028人	その他	4回	55人																										
ロコモティブシンドロームの認知度向上に向けた啓発を地域包括支援センター等の関係機関等との連携により取り組みを実施																															
2	生活機能の低下がみられる高齢者(二次予防事業対象者)に対し、通所による介護予防事業を実施(運動器の機能向上事業・栄養改善事業・口腔機能向上事業 47事業所・参加実人数 1,515人)																														
	介護予防事業の拡大を図るため、介護予防が必要な対象者把握のチェックリストを個別送付																														
3	認知症について正しく理解し、認知症の方や家族を見守る「認知症サポーター」を養成するための講座を実施(認知症サポーター養成数 10,185人)																														
	地域で認知症の方を支える仕組みづくりの一環で、認知症の現状と対応を理解してもらうことを目的に、認知症徘徊模擬訓練を実施																														

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムの構築に向けた校区や社協エリア、また、区単位での会議や研修会開催の動きが出てきており、その中で、認知症高齢者対策についての課題や対策について協議を行う。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目		(1) 栄養・食生活					
指標項目	24	適正体重を維持している者の増加 (40歳～60歳代男性・女性の肥満者の割合の減少)	基準値		実績値	目標値	
			H23		H26	H34	
		男性	31.7%	30.3%	28.0%		
		女性	17.7%	18.8%	14.0%		
	25	健全な食生活が実践できる市民の割合	基準値		実績値	目標値	
			H24		H26	H30	
			54.8%	52.3%	79.0%		
	26	共食の増加 (食事を1人で食べる子どもの割合の減少)	朝食	小学生	16.7%	11.0%	減少傾向へ
				中学生	24.3%	26.1%	減少傾向へ
			夕食	小学生	5.2%	3.3%	減少傾向へ
				中学生	11.1%	9.4%	減少傾向へ
			27	20、30代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少	基準値		実績値
H24					H27	H27	
	20歳代	29.4%	23.3%	15.0%			
	30歳代	29.4%	14.7%	15.0%			
取り組み施策		概要					
1	食育への理解と食育活動の実践	広く市民を対象とした食育事業の取り組みを継続するとともに、ターゲットを絞った食生活改善のための講座を関係団体と連携を図りながら推進する。					
2	食育活動の実践のための食環境整備	栄養成分表示や減塩食普及などのヘルシーメニューを提供して市民の健康づくりを応援する飲食店等の増加に努め、食の環境整備を図る。					

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	各ささえりあで、食生活の指導教室などを開催している。【地域包括支援センター連絡協議会】
	健康支援サイト「日赤hara凹ナビ」を通じ、適正体重を維持し健全な食生活が実践できる為の食生活情報を発信した。【日赤健康管理センター】
	メディアへの協力(食材等の栄養士による解説や料理方法への実演)【日赤健康管理センター】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、健康を支える食の力としての研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
	各園、お弁当・給食と中食のスタイルは違うが、野菜を育てたり、調理したり栄養のことを楽しく学んだりして食に対して興味もてるよう導いていっている。【私立幼稚園協会】
	生活習慣病予防を目的とした献立について、小学校区ごとに調理実習を通じて普及・啓発を行う「すこやか食生活改善講習会(熊本市委託事業)」を実施(H26年度実績:94校区 2,198人)【食生活改善推進委員協議会】
	地域にて、食生活改善を中心とした生活習慣病予防および子ども・高齢者への健康づくりに関する調理実習や啓発活動等(地区組織活動)を実施(H26年度実績: 8,147回 60,331人)【食生活改善推進委員協議会】

1	11/29講演会「食を学ぶのか？ 食で学ぶのか？ ～子どもたちの”できる”を伸ばす食育～」を実施。講師：九州大学准教授 比良松道一氏 参加者：熊本市PTA協議会会員 約800名 【熊本市PTA協議会】 内容：①「弁当の日」に参加し目覚めた「食育」 ②なぜ食べるのかの再認識 ③乱れている食生活 ④弁当の日を通して自立心を育てる 感想等：涙が止まりませんでした。「食」でこんなにも心が動かされるとは・・・話が聞けたことに感謝します。【熊本市PTA協議会】
	子育てサークルにて食生活改善推進員による食事の指導・試食会を実施【東区内】
	健康塾にて和食についての講演会を開催した。【南区内・他】
2	日赤健康管理センター内レストラン「パセリ」にてブルーサークルメニューの提供、及び「健康づくりできます店」「健康づくり応援店」の認定を継続中【日赤健康管理センター】

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	健全な食生活を支援する食環境整備を支援する体制をつくっており飲食店からの栄養成分表示等の依頼に対しての体制づくりをしている。【県栄養士会】
---------	-----------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	市民が健全な食生活を実践するために、対象に合わせた生活習慣病予防のための「食育実践講座」を開催（開催回数138回）
	6月の食育月間に食の大切さや食と健康のつながりについて楽しく学ぶイベント「食と健康フェア2014」を動植物園にて2日間開催（参加者12,261人）
	朝食欠食の改善、共食の増加に向け、子どもの食育推進ネットワークを通じた食育活動を実施
2	市民が身近なところで食育を実践しやすい環境整備のために、食事バランスガイドや栄養成分表示等を実施する「健康づくりできます店」の増加（登録店129店）
	栄養に関する表示を実施する企業等を対象に、その取り組みに対し、「食品関連事業者等への支援」事業を実施（事業所10店）

H27年度は上記内容を継続して取り組む予定

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目		(2) 身体活動・運動					
指標項目	28	日常生活における歩数の増加	基準値		実績値	目標値	
			H27		H27(参考値)	H34	
			20歳 ~ 64歳	男性	短期評価時に 把握	8,416歩	9,000歩
				女性		8,006歩	8,500歩
	65歳 以上	男性	6,859歩	7,000歩			
	女性	7,214歩	6,000歩				
29	1回30分以上の運動(ウォーキング等)を週1回程度以上している市民の割合	基準値		実績値	目標値		
		H24		H26	H30		
		52.7%		52.2%	60.0%		
取り組み施策		概要					
1	運動習慣の定着化に向けた取り組みの推進	生活習慣病予防や健康増進のため、市民の運動習慣の定着を図る。					
2	運動に取り組みやすい環境づくり	市民の健康増進のために運動に取り組みやすい環境づくりを行う。					

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	当ささえりあで開催している「15分続けて歩こうプロジェクト」活動を続けることで、歩くこと、運動することを生活習慣の中に意識付けている。歩いている人が増えている。(再掲(3)働き盛り世代の健康)【地域包括支援センター連絡協議会】
	当センター主催で生活習慣病予防や健康増進を目的としたウォーキング・ランニングイベントを実施(計3回 計102名参加)。また、地域や職域からの依頼を受け、運動講話やストレッチ・ウォーキング教室に運動指導士を派遣(計114回)【日赤健康管理センター】
	家庭でも継続的に運動できる運動指導士によるDVD発売(年間約500枚)【日赤健康管理センター】
	依頼を受けてテレビ、情報誌等に運動の方法の情報を提供(年間17回)【日赤健康管理センター】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、健康づくりのための運動に関する研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
	総合型スポーツクラブの育成・支援を毎年充実させている。【スポーツ推進委員協議会】
	熊本城マラソンには約200名の委員がボランティアスタッフとして参加しスポーツ振興の啓発・支援を行っている。【スポーツ推進委員協議会】
	熊本市民スポーツフェスタを毎年春夏秋冬と多種目にわたって開催し、市民が気軽にスポーツに楽しめる場を作っている。【スポーツ推進委員協議会】
	校区のウォーキング大会、ウォークラリー、ハイキング等を実施。参加者は100名をこえる。【東区内】
	町内単位でラジオ体操や町内めぐりウォーキング等が実施されている【東区内】
わくわく健康塾にてウォーキング、ジョギング講座を開催した。【南区内・他】	
楡木校区ではグランドゴルフ大会年1回、120~130名が参加し実施している。その他各町内で展開しており、中には世代間交流大会を実施している【北区内】	
2	当センター内に会員制の運動療法施設を運営し運動指導を展開(利用者延べ11,000名)【日赤健康管理センター】
	2日ドック受診者に対し、体力測定・運動指導を実施(年間約5,500名)【日赤健康管理センター】
	熊本ウォーキング協会との共催で、「協会けんぽウォーク2014」を実施(参加170名)【協会けんぽ】
	熊本県社会保険委員会と連携し、ミニバレー大会を実施(玉名・八代・天草)【協会けんぽ】
	小中学校の体育館や運動場を夜間開放を実施し市民へのスポーツ活動への参加を促し広報を行って子どもから大人までの活動を実施している。【スポーツ推進委員協議会・体育協会】

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・健くま体操の普及と1日10分プラステンを多くの市民に広めていく。【南区内・他】 ・グランドゴルフ大会の回数を増やしていきたい。特に世代間交流事業を増やしたい。【北区内】
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	地域の健康づくりイベントや健康教室などを通し、ライフステージに応じた健康づくりのための身体活動(生活活動・運動)についての普及啓発を実施
	地域の関係機関(自治会、体育協会等)や職域保健との連携を通して、健康づくりのための身体活動の重要性及びプラス10分運動の普及啓発を図る
	わくわく健康塾で運動をテーマにした体験型講演会を実施した
	若い世代をターゲットにした健康増進、肥満改善の支援として、携帯電話やスマートフォン等を活用しメールマガジンやフェイスブックで健康情報を発信(再掲(3)糖尿病)
	「熊本城マラソン」の開催 (第4回大会:平成27年2月15日 参加人数:フルマラソン11,706人、熊日30キロ68人、城下町4キロ1,499人)
2	総合型地域スポーツクラブの育成・支援 ・活動中のクラブ数21(51小学校区)、会員数6,393人(平成27年3月現在) ・設立準備中のクラブ数1(1小学校区)
	熊本市民スポーツフェスタの実施(広く市民が気軽に参加し、スポーツを通じた健康づくりに取り組む機会として、四季にわたるスポーツフェスタ)(参加者:8,571人) 【実施競技】春季(ソフトボール他9競技)、夏季(ボウリング他5競技)、秋季(パークゴルフ他6競技)、冬季(スケート他6競技)
	高平年神公園拡張整備において、地域住民とワークショップに基づき園路や広場を整備し、運動に取り組みやすい環境づくりを行った
2	校区単位の健康まちづくり事業の取り組みとして、西区版熊本弁ラジオ体操を作成し希望する西区管内の事業所や各校区の自治協議会等の組織に配布。運動習慣の定着促進を図った。
	ICTを活用し、健康まちづくりに積極的に取り組んでいる校区の30～59歳の区民100人をモニターとして、約2ヶ月間のウォーキング状況と血圧、体組成計の身体状況を把握。終了後は区内の運動施設と連携し、個人に合った運動プログラムを作成、指導し、運動に積極的に親しむ環境づくりを行うと共に、健康づくりリーダーの育成を行った。 対象5校区、参加人数100人、実施前後の健康相談 6回 150人

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・東区帯山七丁目に新規公園整備のため、平成26年度に地域住民とのワークショップ、平成27年度には工事を実施し、園路や広場を整備予定 ・健康増進、生活習慣病予防に効果的な運動に積極的に親しむ環境を整備することにより、健康づくりの活性化を図ることを目的とする。 ・健康まちづくり事業展開中の各校区(H27.6現在12校区)から、20名程度の推薦者と一般公募による18歳以上の区民約400名を対象に、合計歩数を競うウォーキングキャンペーンを2ヶ月間実施。併せて区内の社会体育施設にてウォーキングの実技指導とストレッチ等の運動指導を行い、運動に積極的に親しむ環境づくりを行う。 ・健康さるくくまもと西(医療機関の医師、専門学校の建国教育に関わる専門家、民間企業等で構成)が、その専門性を生かして、小島校区の健康づくり組織が企画したウォーキングコースについて、運動効果等を盛り込んだ看板作成に協力する。
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目		(3) 休養			
指標項目	13	睡眠を十分にとっている市民の割合	基準値	実績値	目標値
			H24	H26	H30
	14	ストレスをためないよう気分転換を図っている市民の割合	基準値	実績値	目標値
			H24	H26	H30
取り組み施策		要			
1	「睡眠」の重要性の理解と実践	市民に睡眠や休養の重要性について正しい理解の普及啓発を図るとともに、職域保健と連携し、睡眠や休養に関する取り組みを推進する。			
2	休養がとれるための環境づくり	市民に休養のとり方やストレス対処法などについて情報提供を行うとともに、市民が悩みを相談できる環境整備を行う。			

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	職場におけるスモールチェンジ事業で、からだと心の両面からサポートしている。具体的には月1回事業所が発行するテラーメイド新聞に、休養のとり方やストレス対処法等を記載している【協会けんぽ】
	熊本日日新聞暮らし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、質の良い睡眠に関する記事を掲載(再掲(2)循環器疾患)【協会けんぽ】
	医療保険者主催の生活習慣病予防セミナーで新しい睡眠指針の情報提供を行った。【日赤健康管理センター】
	外部からの依頼を受け、地域・職域・健康保険組合・共済組合の方を対象に、ストレス解消を目的として、肩こり・腰痛のためのストレッチ等を実施【日赤健康管理センター】
2	企業・事業場からの依頼でメンタルヘルス講話を行った。その中で睡眠や休養について情報提供している。【日赤健康管理センター】
	昼休み時間に職員と受診者対象のストレッチ体操を実施【日赤健康管理センター】

H27年度は上記内容を継続して取り組む予定

2. 行政における主な取り組み状況等

取り組み状況等	
1	地域の各種健康イベント等を通して、健康づくりのための「睡眠指針2014」の内容を用いてより良い睡眠のとり方等睡眠に関する啓発を実施。東区 (19回 380人)
2	こころの健康センターにおいて、ストレス対処法などに関する講話を実施(引受人会講話:3回43人) 高齢者施設職員等へのストレスに関する講話(1回)参加者:65人

H27年度は上記内容を継続して取り組む予定

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目	(4) 飲酒						
指標項目	30	生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者(男性は清酒換算2合以上、女性は清酒換算1合以上の者)の割合の減少	基準値		実績値	目標値	
			H23		H26	H34	
			男性	14.0%	14.1%	11.7%	
				女性	8.9%	9.0%	7.8%
	31	未成年者の飲酒をなくす 国参考値	基準値		実績値	目標値	
			H22		H24	H34	
			中学3年生	男子	10.5%	7.6%	0%
				女子	11.7%	9.0%	0%
			高校3年生	男子	21.7%	16.1%	0%
	女子	19.9%		16.6%	0%		
	32	妊娠中の飲酒をなくす	基準値		実績値	目標値	
			H24		H26	H34	
3.7%			4.2%	0%			
取り組み施策	概要						
1	適正飲酒の普及啓発	市民に飲酒に関する情報提供を行い、適正飲酒の普及啓発を図る。					
2	未成年者への情報提供	市民や教育機関等と連携し、未成年者の飲酒防止を推進する。					
3	妊娠中や授乳中の飲酒の防止	市民に妊娠中や授乳中の飲酒について情報提供を行い、正しい理解の普及啓発を行う。					

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	特定保健指導及びメタボ予備群の保健指導時、メタボ予防セミナーにおいて適正飲酒の指導を行った。【県保険者協議会】 平成26年度セミナー 実績: 合同セミナー4回177人、組合単独セミナー10回284人
	熊本日日新聞暮らし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、お酒の上手な飲み方に関する記事を掲載(再掲(2)循環器疾患)【協会けんぽ】
	保健指導実施時に当センターオリジナルの減酒支援媒体とAUDITを用いて減酒支援を行っている。【日赤健康管理センター】
	各種イベントへ参加し、市民に対しての食事の重要性の普及啓発を行いながら食事、栄養相談を行う。食と健康フェア2014(栄養相談延360人)(健康フェスティバル栄養相談362人)(再掲(2)循環器疾患)【県栄養士会】

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	H27.7肥前精神医療センター主催の「ブリーフ・インターベンション&HAPPYプログラム研修」に参加した。今後の減酒支援に活用していく予定。【日赤健康管理センター】
---------	------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
	各種イベント等を活用した適正飲酒に関する啓発を実施(アルコールパッチテスト及び適正飲酒量についてのパネル等展示)実績: 853人
1	飲酒に関する情報提供・普及啓発として、依存症講演会(参加者:49人)、アルコールについての研修会(1回、57人)、ホームページでの依存症に関する情報提供、依存症家族教室(24回 参加者:延べ226人)を実施
	健康まつり等区内で実施する各種イベントにて、アルコールパッチテストやアルコール関連の啓発を実施(3回、199人)
2	教職員を対象とした「喫煙、飲酒、薬物乱用防止教育研修会」を実施
3	親子(母子)健康手帳交付時や妊婦検診及び育児相談等の際に、妊娠中や授乳中の飲酒を行わないよう保健指導を実施 ※妊婦健康相談実績(計 相談日3,449件、相談日外:3,993件)(再掲(2)次世代の健康)
	産科医療機関等との連携を図り、妊産婦の飲酒防止について啓発や保健指導を強化する

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	依存症家族教室において、当事者に対する家族としての適切な対応を学ぶためCRAFTの学習を取り入れる等、内容の充実を図る。
---------	--------------------------------------------------------------

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目	(5)喫煙						
指標項目	33	「たばこを吸わない」と答える市民の数を増やす	基準値	実績値	目標値		
			H24	H26	H30		
			70.7%	73.1%	増加傾向		
	34	COPDの認知度の向上	基準値	実績値	目標値		
			H27	H27	H34		
			短期評価時に把握	58.6%	80.0%		
	35	受動喫煙(家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関)の機会を有する者の割合の減少	基準値	実績値	目標値		
			H27	H27	H34		
			行政機関	短期評価時に把握	7.8%	0%	
			医療機関		6.4%	0%	
			職場		30.2%	受動喫煙のない職場の実現	
			家庭		23.3%	3.0%	
	飲食店	51.7%	15.0%				
	36	妊娠中の喫煙をなくす	基準値	実績値	目標値		
			H23	H26	H34		
5.5%			4.8%	0%			
37	未成年者の喫煙をなくす	基準値	実績値	目標値			
		H22	H24	H34			
		国参考値	中学1年生	男子	1.6%	1.2%	0%
			女子	0.9%	0.8%	0%	
		高校3年生	男子	8.6%	5.6%	0%	
女子	3.8%		2.5%	0%			
取り組み施策	概要						
1	禁煙の支援	イベントや学校、職場等においてたばこの害についての啓発を進めるとともに、禁煙の指導を受けることのできる場所や相談先の情報提供を行い、禁煙の支援を行う。					
2	受動喫煙防止	行政施設、事業所等での禁煙を進めるとともに、幼児健診等の場を活用し、家庭での禁煙・分煙等の啓発を行う等、受動喫煙防止に取り組む。					
3	妊娠中・授乳中～未成年の喫煙防止	妊娠中、授乳中の女性や同居家族の喫煙が子どもに及ぼす影響について、親子(母子)健康手帳交付時に知識の普及に努めるとともに、学校における喫煙防止教育を推進する。					

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	特定保健指導及びメタボ予備群への保健指導(周辺事業)メタボ予防セミナーにおいてタバコの害、禁煙指導を行った。平成26年度セミナー実績:177人【県保険者協議会】
	保健指導実施時にオリジナルの禁煙支援媒体を用いて、禁煙支援を行っている。【日赤健康管理センター】
	機関誌へ禁煙に関する記事の掲載【日赤健康管理センター】
	Facebookによる啓発【日赤健康管理センター】
	医療保険者主催の生活習慣病予防セミナーにおいて禁煙に関する情報提供を行った。【日赤健康管理センター】

	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、喫煙の健康影響についての研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
1	受動喫煙防止のため、中小企業事業主が喫煙室を設置する場合は、上限200万円で費用の1/2を助成する制度があることを周知広報した。【労働基準監督署】
	イベント開催時は喫煙を禁止している【北区内】
	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、受動喫煙防止に関する研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
2	熊本大学大学院の大森教授と連携し、元気な職場づくり支援事業参加事業者に対し、たばこ(COPD)に関するアンケート調査を実施し、実態把握を行った。【協会けんぽ】
	熊本日日新聞暮らし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、たばこの害、受動喫煙・職場での禁煙取り組みに関する記事を掲載。全24回中3回。(再掲(2)循環器疾患)【協会けんぽ】
3	妊婦歯科健診に来られた妊婦さんには喫煙が赤ちゃんに与える影響について説明を実施【市歯科医師会】

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 医療保険者からの委託で企業・事業場へ出向き出張禁煙セミナーを実施予定【日赤健康管理センター】 食と健康フェアにおいてタバコに関するアンケートを実施。日本禁煙学会で「事業所での取り組み報告」をアンケート結果を用いて発表予定【協会けんぽ】
---------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等																																				
1	小学生を対象に禁煙啓発ポスターコンテストを実施。ポスターを作成し、庁内関係課やがん対策協定企業へ配布した(再掲(1)がん)																																			
2	幼児健診等の場を活用し、幼児へのタバコの影響について啓発を実施。家庭での禁煙・分煙の啓発を行った。																																			
3	<p>親子(母子)健康手帳交付時および両親学級開催時に妊婦や乳幼児へのタバコの影響について啓発を実施</p> <p>平成26年度地域における喫煙・COPDの啓発実績 (94校区中 55校区 計192回 4,994人) ※その他は区単位、ブロック単位での啓発数</p> <table border="1"> <tr> <td>中央区</td> <td>(12校区)</td> <td>35回</td> <td>1,327人</td> <td>その他</td> <td>7回</td> <td>477人</td> </tr> <tr> <td>東区</td> <td>(9校区)</td> <td>12回</td> <td>256人</td> <td>その他</td> <td>2回</td> <td>33人</td> </tr> <tr> <td>西区</td> <td>(10校区)</td> <td>22回</td> <td>603人</td> <td>その他</td> <td>2回</td> <td>31人</td> </tr> <tr> <td>南区</td> <td>(10校区)</td> <td>61回</td> <td>966人</td> <td>その他</td> <td>7回</td> <td>135人</td> </tr> <tr> <td>北区</td> <td>(14校区)</td> <td>38回</td> <td>1,061人</td> <td>その他</td> <td>6回</td> <td>105人</td> </tr> </table> <p>親子(母子)健康手帳交付時にマタニティマークを交付</p> <p>中学校から依頼のあった薬物乱用防止教室の中で、喫煙による健康被害を説明し、喫煙しないように指導した(115人)</p> <p>産科医療機関等との連携を図り、妊産婦の喫煙防止について啓発や保健指導を強化</p>	中央区	(12校区)	35回	1,327人	その他	7回	477人	東区	(9校区)	12回	256人	その他	2回	33人	西区	(10校区)	22回	603人	その他	2回	31人	南区	(10校区)	61回	966人	その他	7回	135人	北区	(14校区)	38回	1,061人	その他	6回	105人
中央区	(12校区)	35回	1,327人	その他	7回	477人																														
東区	(9校区)	12回	256人	その他	2回	33人																														
西区	(10校区)	22回	603人	その他	2回	31人																														
南区	(10校区)	61回	966人	その他	7回	135人																														
北区	(14校区)	38回	1,061人	その他	6回	105人																														

H27年度は上記内容を継続して取り組む予定

3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

取り組み項目	(6) 歯・口腔の健康					
指標項目	38	3歳児でむし歯のない者の増加	基準値	実績値	目標値	
			H23	H26	H34	
				76.3%	75.0%	90.0%
	39	12歳児でむし歯のない者の増加(中学1年生) ※1人あたりのむし歯本数	基準値	実績値	目標値	
			H23	H26	H34	
				1.29本	1.07本	0.7本未満
	40	20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少	基準値	実績値	目標値	
			H22	H26	H34	
				38.0%	36.4%	25.0%
	41	60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加	基準値	実績値	目標値	
H23			H27	H34		
			63.9%	68.2%	70.0%	
42	80歳で20歯以上の自分の歯を有する者(8020達成)の増加	基準値	実績値	目標値		
		H23	H27	H34		
			38.3%	54.5%	60.0%	
取り組み施策		概要				
1	子どものむし歯や歯肉炎の予防	乳幼児健診、相談、健康教育でむし歯や歯肉炎予防、生活習慣の情報提供の充実。				
2	歯周疾患の予防	20歳以上の年代に歯周病と低出生体重児等との関わりや口腔疾患が生活習慣病であることの周知に努め、歯科健診の啓発を図る。				
3	歯の喪失防止	<ul style="list-style-type: none"> ・8020運動を目指すためにも、60歳代における咀嚼良好者の増加を目指す。 ・大学生等に対する歯周病対策を行うことで、8020の達成を図る 				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	イベントなどでむし歯や歯肉炎について説明。予防策の啓発を行う。また、毎年小学3年生と特別支援学級を対象とした「歯磨き巡回指導」で正しい歯磨きの仕方や体に及ぼす影響について説明している。【市歯科医師会】
	各種医療保険者からの委託でセミナーを開催し、歯周病に関する講演と実技指導を実施した。(親子参加あり)【日赤健康管理センター】
	各園で、歯科検診と共に歯磨きの指導も行い食後の歯磨きを習慣づけている。【私立幼稚園協会】
	中学校・小学校・幼稚園・保育園で健康教室への協力【8020健康づくりの会】
	小学校でのフッ化物洗口への協力【8020健康づくりの会】
	地域での子育てサークルの健康教室(歯科関係)への協力【8020健康づくりの会】
2	大学の文化祭で「歯たちの健診」(無料健診)を行い、学生達に歯周病と生活習慣病予防についての説明を行っている。【市歯科医師会】
	<ul style="list-style-type: none"> ・サロンなどで、口腔ケア、8020の周知を図っている。 ・地域の8020推進員と一緒にサロンなどで高齢者に口腔ケアを周知している。 ・運動会、地域の行事の中で8020のコーナーを設けている。 【地域包括支援センター連絡協議会】
	上記1と同様【日赤健康管理センター】
	熊本県歯科医師会と連携し、事業所における歯援プログラム【質問票及びペリオスクリーン(唾液検査)の実施による歯科指導及び歯科医への受診勧奨】推進のため、協会けんぽ熊本支部においてモデル実施を行った。【協会けんぽ】
	熊本日日新聞くらし面で「働き盛りの健康が危ない」と題し、歯周病に関する記事を掲載。(再掲(2)循環器疾患)【協会けんぽ】
	「歯たちの健診」への協力(平成27年度は崇城大学で実施予定)【8020健康づくりの会】
	校区のイベント開催時に口腔に関するアンケート及び検査を行っている。【北区内】

	毎年、熊本市民健康フェスティバルで8020達成者の表彰をしている。8020の大切さを啓発している。 【市歯科医師会】
	市町村住民健診及び特化物健診において歯科健診を実施【日赤健康管理センター】
3	人間ドック受診者へ歯科健診と実施。(2日ドックは全員、1日ドックは希望者)【日赤健康管理センター】
	歯の祭典・江津湖フェスタ・健康フェスティバルで8020コーナー(クイズ等)の実施【8020健康づくりの会】
	地域の夏祭り・校区運動会・PTAバザー等でフッ化物洗口の体験【8020健康づくりの会】

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	・スモールチェンジ事業所における歯援プログラムの実施(200名)【協会けんぽ】 ・イベント、敬老会、榎木春まつりの会場で検査ブースを設け関わっていききたい【北区内】
---------	---------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
	3歳児健診時に歯科健診及びフッ化物の継続利用、仕上げ磨きの徹底、噛み合せ等の説明を含む相談を実施。(受診者 6,820名 受診率 96.3%)
	保育園・幼稚園におけるフッ化物洗口の取り組みを実施(実施園 201園中 98園)
1	フッ化物洗口普及モデル事業の実施校拡大に向け、歯科関係団体等の協力のもと、学校、保護者への説明会や地域での健康づくりに関する催事等での啓発を行い、7校がモデル校として実施
	フッ化物洗口普及モデル事業については、指定校の拡大に向け、引き続き歯科関係団体等の協力のもと、小学校及び保護者等への説明会等を開催し、周知、啓発を図る。(27校 延35回)
	小学校でむし歯や歯肉炎予防についての講話及び歯みがき指導を行う健康教室等を開催
	小学校でのフッ化物洗口の本格実施に向け、効率的な実施方法等の検討を行うとともに、学校や保護者等への効果や安全性等についての周知を図る
2	生活習慣が不規則になる時期でもある大学生を対象に、歯科健診・相談、歯周病と喫煙等の情報提供を実施。(歯たちの健診受診者74名)※県立大にて実施
	CKD予防教室の中で、歯と口腔の健康についての情報提供等を実施
3	成人期から高齢者を対象とした歯周病予防や口腔機能向上に関する講話及び歯磨き指導を実施

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	1歳になった児全員に送付している「満1歳おめでとうカード」に、むし歯予防の指導項目を追加した。
---------	-------------------------------------------------

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

取り組み項目	(1)小学校区単位の健康まちづくり				
指標項目	43	市民と協働で健康をテーマとしたまちづくりを実施する校区の増加	基準値	実績値	目標値
			H23	H25	H30
			6校区	55校区	92校区
取り組み施策	概要				
市民・関係機関・行政との協働による健康まちづくりの推進	小学校区を単位とし、校区の健康課題や健康づくりの目標を市民と共有しながら、校区の特性に応じた健康をテーマとしたまちづくりの取り組みを推進するとともに、生活習慣が形成される時期に展開される学校保健との連携に努め、健康課題解決に向けた取組みを推進する。				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
	当ささえりあで活動している「15分続けて歩こうプロジェクト」は、担当校区の地域住民と役員、関係機関、保健師さんと一緒に続けている。「健康まちづくり」の意識付けはできてきているように感じている。【域包括支援センター連絡協議会】
	花園校区の健康づくり部会と西区保健子ども課、花園小PTAが連携した事業。PTAバザーや、校区運動会等の機会をとらえてブースを設定し、健康チェックや健康相談等を実施。参加者は、30～40代を中心とした保護者や地域の方々約50人(初年度は約10人だった)(熊本市PTA協議会)
	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の総合学習の時間をお借りして「認知症キッズサポーター講座」を開催。小学生に認知症の基礎知識を学んでもらい、同時に高齢者を敬う心を伝えた。 ・託麻原小学校で「高齢者疑似体験・車いす体験」の研修をリハビリ専門職、介護サービス事業所、福祉用具事業所、熊本学園大学社会福祉学部学生、社会福祉協議会と共に行い、その後介護老人保健施設にて高齢者とのふれ合いを行った。 ・帯山西校区では地縁組織である校区社協、民児協、自治協と中央区保健子ども課、市社会福祉協議会、包括と共に「健康づくり」をテーマに月に1回会議を重ね対応策を検討した。 ・帯山中学校区で、「地域支え合い“共同”体制づくり推進協議会」(地縁組織、居宅支援事業所、介護サービス事業所、訪問看護ステーション、医療機関、地域リハビリテーション広域支援センター、司法書士、学識経験者、保健子ども課、市社会福祉協議会等)を発足させ、高齢者の生活支援・介護予防に関するアンケート調査や地域ケア共同推進会議兼学習会が開催された。 ・帯山校区の在宅療養支援診療所の「まちの保健室」の立ち上げ支援を民児協、包括支援センターで行った。【中央区内】
	毎年実施している校区体育祭に校区内の病院と連携して健康相談コーナーを設けて健康チェックを広く住民に行っている【スポーツ推進委員協議会・白川校区】
	<ul style="list-style-type: none"> ・河内校区体育協会では子育て世代を中心として地域の健康づくりを中心とした活動を行っている。 ・河内小・中PTAの協力のもと町民体育祭を開催。地域包括支援センター等の協力により健康チェックを行っている。 ・健康づくり風揚げ大会を実施し、協賛団体と連携し西区保健子ども課と協力して健康チェックを行っている。【西区内】
	現在では校区イベント時に北区保健子ども課の協力をえて楡木校区健康まちづくりワークショップを開催している。3回目を終え、最終を目指している。【北区内】

2. 関係機関・団体における左記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・帯山中学校区、各(託麻原・帯山・帯山西)小学校区、町内、隣保組単位で高齢者を軸とした日常的な助け合い、地縁組織の随時対応できるサポート、NPO等が行うテーマ型の助け合いのサービスの開発し、またそれぞれのネットワークを構築予定。【中央区内】 ・「東区健康まちづくり推進員協議会」を6月30日に設立。「楽しく伸ばそう健康寿命」をテーマに活動を開始【東区内】 ・本年度も河内小・中PTA、子ども会等の団体と協力して健康づくりを議題に事業を行い子育て世代の健康チェック、特定健診の受診向上を図る。【西区内】 ・健くま体操の普及【南区内・他】 ・楡木校区健康まちづくりワークショップで楡木校区の目指す姿を明確にする。【北区内】
---------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
(中央区)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存のネットワーク、団体に働きかけ、健康課題を共有し各校区の特性に合わせた健康づくり活動を推進。また、本事業の活性化を目的に、まちづくり交流室を単位とした各校区代表による交流会を実施 ・健康ボランティア(健康サポーター、健康ボランティア医師の会「けんつく会」と)との連携
(東区)	<ul style="list-style-type: none"> ・校区の組織・リーダーへの働きかけを行い、自分の健康状態を知り、健康づくりを継続し、周囲へ広めることができるように働きかけることを目的とした健康学習会を住民と協働で実施 ・健康学習会の実施(H26年度 65回、2,034人) ・健康まちづくりサポーターの養成。(修了生 H25年度21人、H26年度20人)
(西区)	<ul style="list-style-type: none"> ・校区自治協議会を母体とした「健康づくりを考える組織」の推進 ・西区健康まちづくり報告会実施による、校区の取り組みについて情報共有、各校区の健康づくり活動を推進 ・「健康づくりを考える組織」の設置校区数 15校区 ・包括協定を行っている熊本大学政策創造研究教育センターとの連携 ・医療機関との連携を図り、特定健診受診向上に向け強化月間の協働実施(生活習慣病対策ネットワーク会議との連携)
(南区)	<ul style="list-style-type: none"> ・管内の全ての校区の自治協議会へ健康まちづくり事業への取り組みを働きかけ、12校区で事業展開中、うち、8校区で健康まちづくり部会を設立し、6校区が活動計画策定中、3校区が取り組み検討中である。 ・区役所関係課で定期的にプロジェクト会議を開催し、区役所内の連携を図り、校区へ効果的な働きかけを行った。5回 147人 ・健康まちづくり推進のため、全校区の役員等を対象に健康まちづくりリーダー研修会を各ブロック毎に開催。6回 181人、併せて職員対象の研修会を実施。1回 34人 (熊本大学政策創造研究教育センター 河村準教授に委託)
(北区)	<ul style="list-style-type: none"> ・区内全校区にて、事業説明及び校区の健康課題の説明を行った結果、4校区で取り組みを開始し、ワークショップや役員会を通して「校区のめざす姿」や活動内容を決定し、H27年度からの活動開始の準備を行った。 ・各校区の自治協役員等を対象に、市政リレーシンポジウムへの参加を呼びかけ、年度末には住民リーダー研修を実施。活動を進める上での研修の場、校区間の情報交換の場とし、又、活動への取り組みを開始していない校区への働きかけも実施。
(健つ)	<ul style="list-style-type: none"> ・全市的な取り組み推進を図るため、校区自治協議会等の関係者による活動報告会を実施 ・6回にわたり健康まちづくりをテーマとする「平成26年度市政リレーシンポジウム」を開催した。ワークショップ開催につながるなど、校区の取り組みをさらに進めるものとなった。(参加者1,440名)

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・(仮称)南区まちづくり自慢大会において、積極的に取り組んでいる校区の健康まちづくり活動事例について発表、表彰を行い、区内での情報共有、取り組み推進、活動機運の醸成を図る。
---------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

取り組み項目		(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援			
指標項目	44	健康づくり推進に関するボランティア数等の増加	基準値	実績値	目標値
			H24	H26	H30
			1,327人	1,433	3,000人
	45	過去1年間に地域活動に参加した市民の割合 (参加したことがある)	基準値	実績値	目標値
H24			H26	H30	
		46.7%	43.4%	60.0%	
取り組み施策		機 要			
1	ボランティアの育成・支援	食生活改善推進員や8020推進員などの健康づくりに関するボランティア養成や活動支援に努めるとともに、「校区単位の健康まちづくり」を推進する部会を設置する等、組織化を図っていく。			
2	ボランティア支援体制の充実等	ボランティア活動に関する情報発信の場の提供など継続した活動を支援し、「健康づくり熊本市民応援団」や地区住民会議の取り組みを支援する。			

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

	具体的な内容等
1	<p>各ささえりあで「健康づくり支援者研修会」「介護予防サポーター養成講座」などの名称で開催し、健康づくりのボランティアを育成・支援している。【地域包括支援センター連絡協議会】</p> <p>家庭の健康づくりサポーター制度を創出し、健康保険(健康づくり・医療費適正化)に関する情報の提供を行った。(登録者583名)【協会けんぽ】</p>

2. 関係機関・団体における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	健康づくり熊本市民応援団のメンバー募集活動、健康塾の参加【南区内・他】
---------	-------------------------------------

3. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等

1	<p>健康づくりに関するボランティア養成、活動支援として、食生活改善推進員(H26実績 85名)や8020推進員(H26実績73名)、精神保健福祉ボランティア(H26実績9名)等の健康ボランティアを養成。</p> <p>健康まちづくりサポーター等の養成(実績 平成26年度修了生21人) 健康まちづくりサポーター修了生の地域活動参加(実績 実18人 延77人)</p> <p>「けんつく会(健康をつくるボランティア医師の会)」が校区単位の健康まちづくりを支えるボランティア団体として活動することを支援する</p>
	<p>食生活改善推進員活動の支援を実施(実績8,147回 60,331人)</p> <p>8020推進員活動の支援を実施(実績 427回 1,266人)</p>
2	<p>「健康さるく熊本西(医療機関の医師等、専門学校健康教育に関わる専門家、民間企業等で構成)」が、校区単位の健康まちづくりを支えるボランティア団体として活動することを支援する 6回745名(西区保健子ども課)</p> <p>精神保健福祉ボランティア養成講座修了生のつどいを実施(3回 参加者:延べ 47人)</p> <p>健康づくり活動団体等との連携による「わくわく健康塾」の開催(実績 6回、207人)</p> <p>区内の企業やJA、旅館組合等に対し、従業員のがん検診受診勧奨のためのポスター掲示及び、受診勧奨依頼を行った(6箇所)(再掲(1)がん)</p>

4. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 健康まちづくりサポーター養成講座修了生による「健康まちづくり推進員協議会」の設立(H27.6.30)及び運営・活動支援。 精神保健福祉ボランティア養成講座および修了生のつどいについては、精神障がい者が、精神障がいがあっても地域の人々とともに生活できるよう、精神障がいへの正しい理解の普及にも力を入れ、当事者であるピアサポーターに相談しながら企画する。
---------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4 健康を支え、守るための社会環境の整備

取り組み項目	(3) 企業・大学等の健康づくり活動の促進				
指標項目	46	健康づくりできます店の登録数の増加	基準値	実績値	目標値
			H23	H26	H30
			109店	129店	200店
取り組み施策	概要				
1 職場における健康づくり	職域保健や企業と連携し、職場における健康づくりを推進する。				
2 産学公民の連携による健康づくり	大学や企業等と連携し、市民が健康づくりしやすい環境整備を図る。				

1. 関係機関・団体における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	事業場の産業保健スタッフ等を対象に、メンタルヘルスを含む健康管理対策の研修会を実施した。【熊本産業保健総合支援センター】
	労働安全衛生法に定める衛生委員会の付議事項に関して「健康の保持増進」の項目があり、各事業場における実施状況を確認している。【労働基準監督署】
2	大学の文化祭で「歯たちの健診」(無料健診)を行い、学生たちに歯周病と生活習慣予防についての説明を行っている。(再掲6歯・口腔の健康)【熊本市歯科医師会】
	熊本大学大学院の大森久光教授並びに加藤貴彦教授と医療費分析に関する協定を締結した。【協会けんぽ】

H27年度は上記内容を継続して取り組む予定

2. 行政における主な取り組み状況等

具体的な内容等	
1	事業所を対象とした「生活習慣病予防を目的とした食育実践講座」を実施。(6事業所、75人)
	全国健康保険協会(協会けんぽ)熊本支部と、健康づくりに関する包括協定に基づいた取り組みを実施。(再掲:(1)がん、(3)働き盛り世代の健康)
	・がん対策の推進に取り組む企業・団体等の拡充。 がん対策を推進する企業・団体との協定締結に向け公募を実施(再掲:(1)がん) がん対策を推進する企業・団体2社とがん対策企業等連携協定を締結(H26.7.3) (再掲:(1)がん)
2	大学生を対象に九州農政局との協働で生活習慣病予防を目的とした「食育実践講座」を開催し、「食事バランスガイド」についてのパネル展示やパソコン診断等、また、食生活などに関するアンケートを実施。
	大学の新生オリエンテーションにおいて、全新生へ食育講話を実施。(参加者 780人)
	大学生を対象に歯科健診・相談、歯周病と喫煙等の情報提供を行う「歯たちの健診」を実施(再掲:(6)歯・口腔の健康)

食事バランスガイドや栄養成分表示等、栄養に関する表示を実施する企業を対象に、その取り組みに対する支援を実施

2 子宮頸がん、乳がん、大腸がん検診啓発パンフレットを効果的な広報ツールとするため関係機関(協会けんぽ、がん協定企業や大学生等)とワーキンググループを設置し、内容を検討した上で作成した(再掲:(1)がん)

各区における大学生等の食事に関する実践力アップのための食育実践講座の開催。(開催回数7回)

3. 行政における上記以外のH27の取り組み予定

H27取り組み 東区管内産学公民連携による健康まちづくりシンポジウムの開催(H28.1.23)

※参考: 健康づくりできます店について

■健康づくりできます店とは

エネルギー等の栄養表示がある、野菜がもりもり食べられる、最後までたばこの煙に悩まされることなく、おいしく食事ができるなど、利用者の想いを実現したのが「健康づくりできます

■登録項目

- 1 健康サポートメニュー
 - 1) 栄養表示
 - 2) 食事バランスガイドの表示
 - 3) バランスメニューの提供
 - 4) 野菜もりもりメニューの提供
 - 5) くまもと減塩美食メニューの提供
 - 6) ヘルシーオーダーへの対応
- 2 地産地消
- 3 禁煙の推進(施設内を完全禁煙とする)



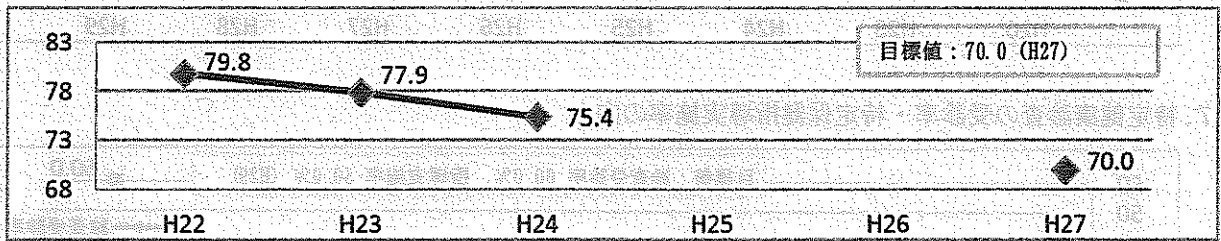
- * 登録店の目印は、上記の「ステッカー」です。
- * 健康に関する取り組み数は店舗によって異なります。

成果指標等の推移

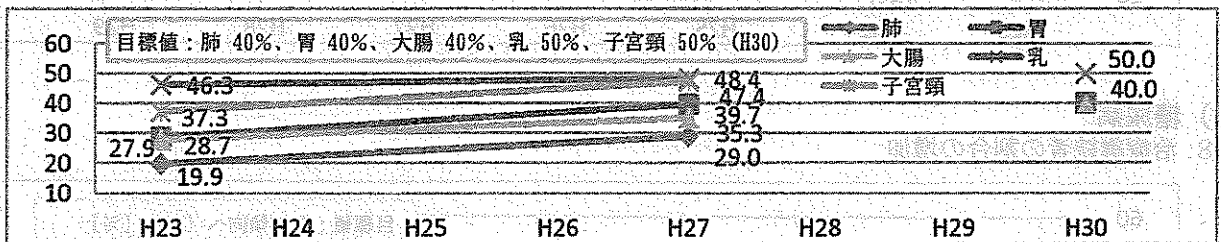
1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底

(1) がん

1. 75歳未満のがんの年齢調整死亡率の減少（10万人当たり）

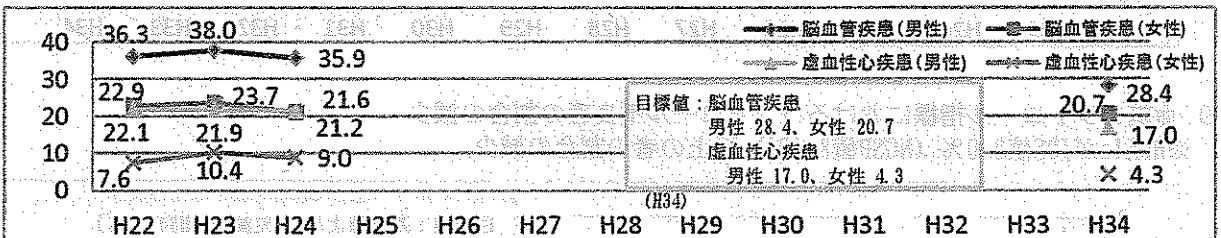


2. がん検診受診率の向上（市が実施するがん検診の他、職場検診、人間ドック等を含む）

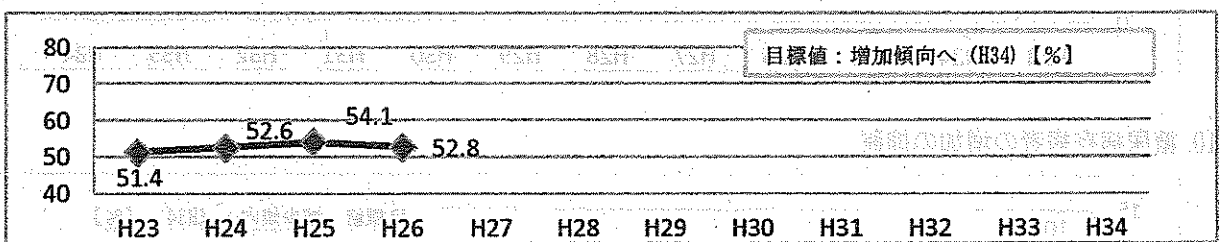


(2) 循環器疾患

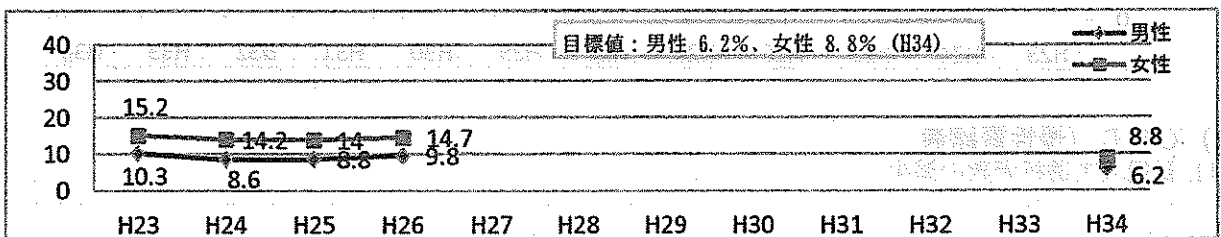
3. 脳血管疾患・虚血性心疾患の年齢調整死亡率の減少（10万人当たり）



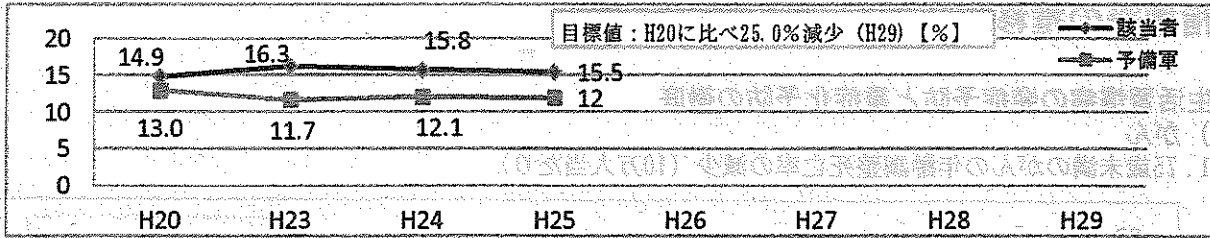
4. 血圧が正常域の者の増加



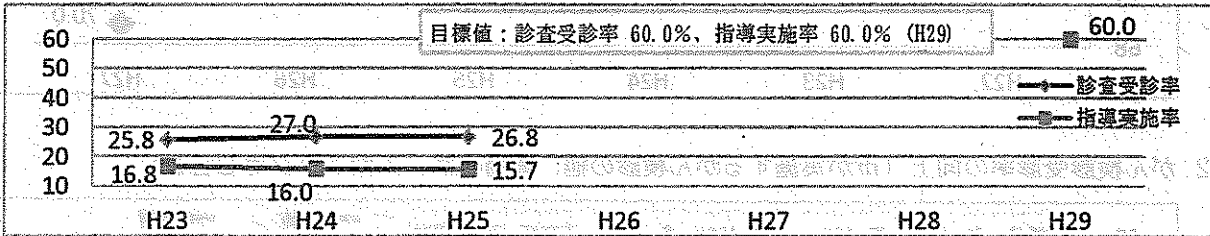
5. 脂質異常症（高コレステロール血症）患者の減少 ※LDLコレステロール160mg/dl以上



6. メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少

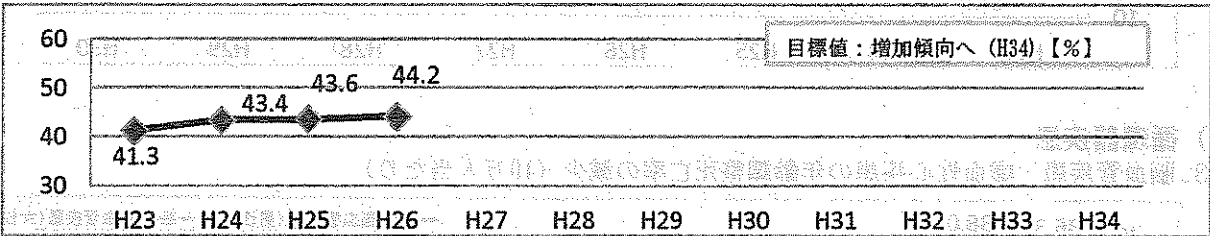


7. 特定健康診査の受診率・特定保健指導実施率の向上

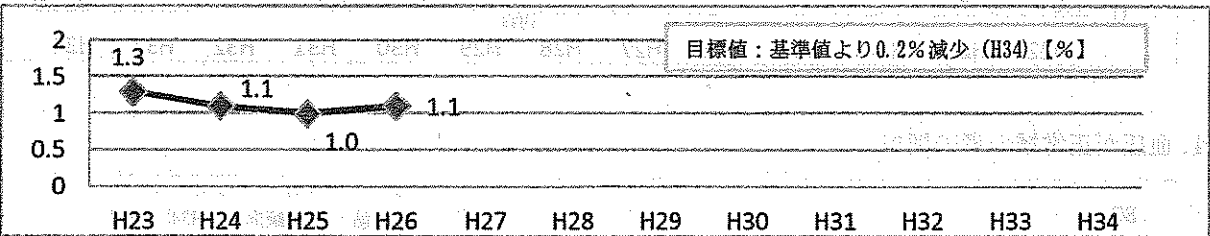


(3) 糖尿病

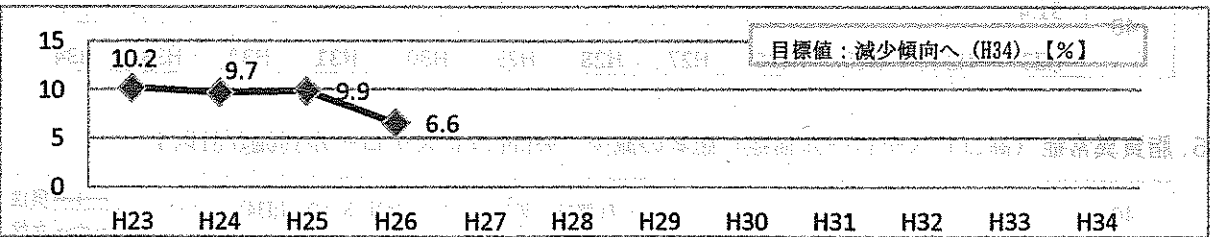
8. 治療継続者の割合の増加



9. 血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少
 ※HbA1cがJDS値8.0% (NGSP値8.4%)以上の者の割合の減少

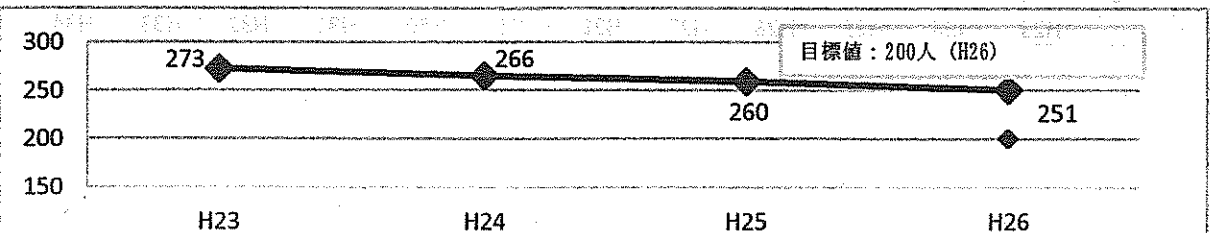


10. 糖尿病有病者の増加の抑制



(4) CKD (慢性腎臓病)

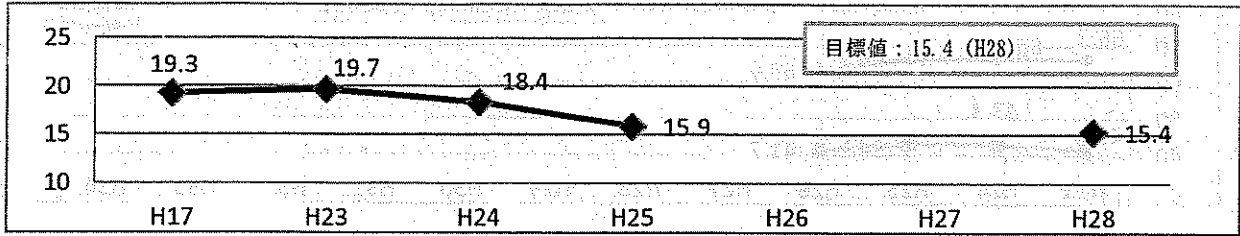
11. 新規人工透析者数の減少



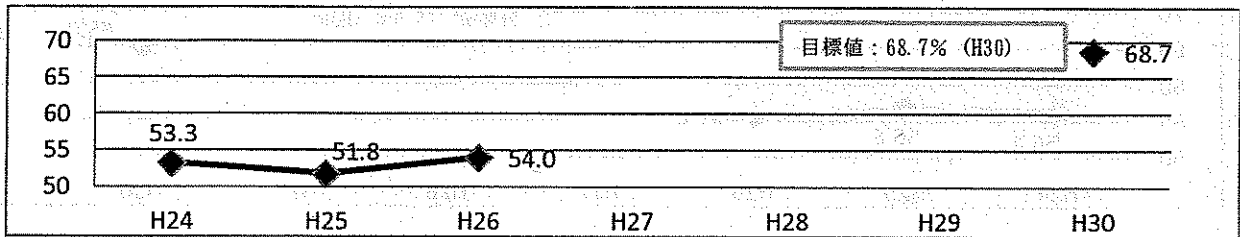
2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上

(1) こころの健康

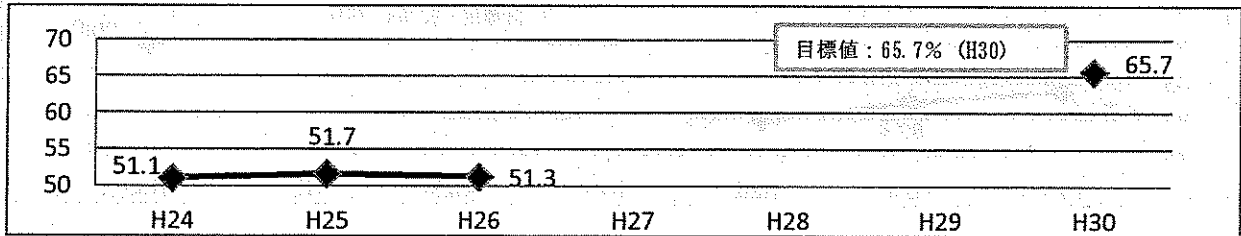
12. 自殺者の減少（人口10万人当たり）



13. 睡眠を十分にとっている市民の割合

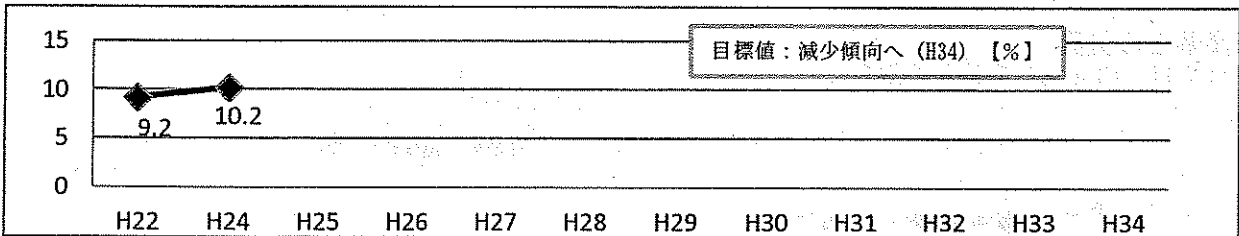


14. ストレスをためないよう気分転換を図っている市民の割合

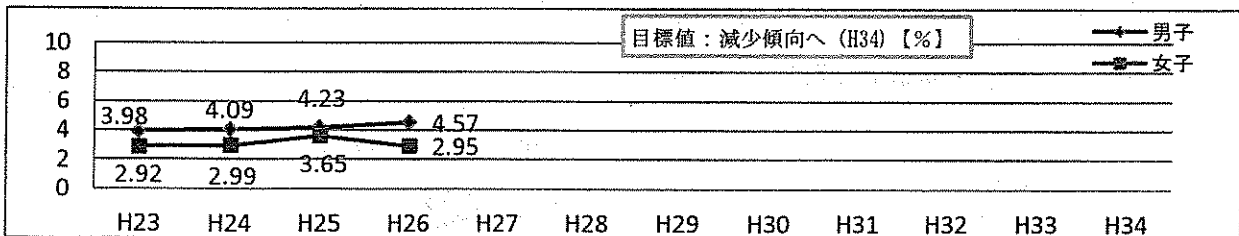


(2) 次世代の健康

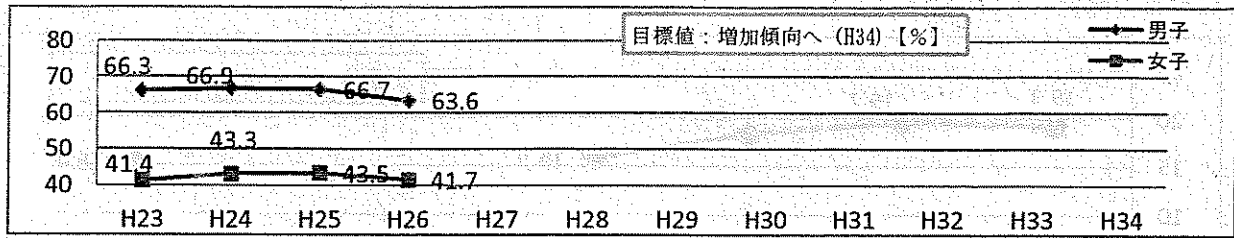
15. 全出生数中の低出生体重児の割合の減少



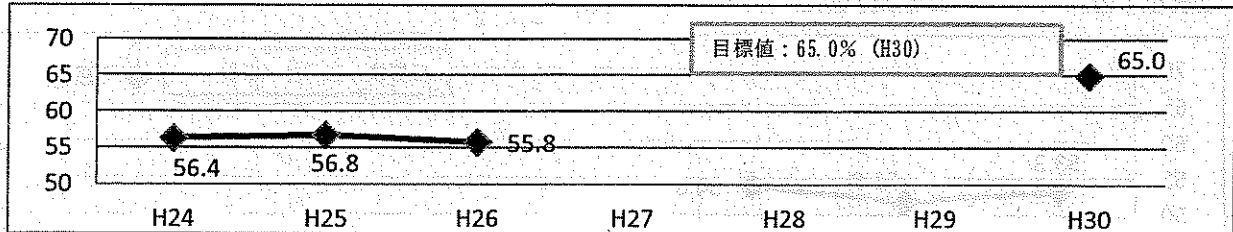
16. 肥満傾向にある子どもの割合の減少（小学校5年生の中等度・高度肥満傾向児の割合）



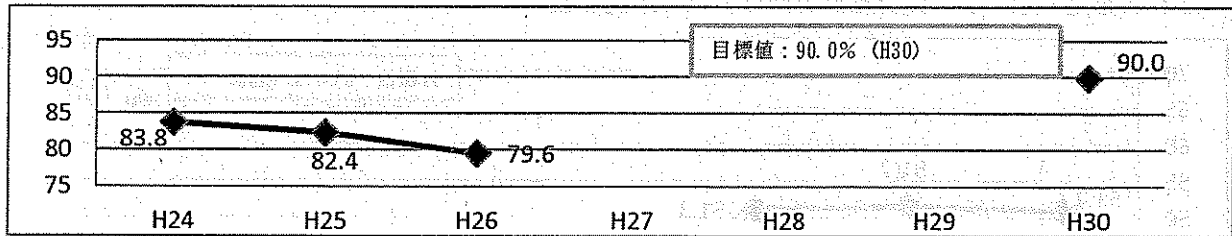
17. 運動やスポーツを習慣的にしている子どもの割合の増加
(週に3日以上運動習慣のある小学5年生)



18. 子どもたちが健やかに成長していると感じる市民の割合



19. 子育てが楽しいと感じる市民の割合

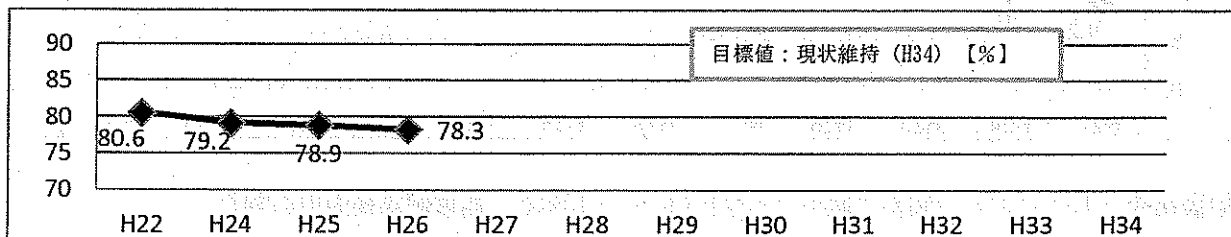


(3) 働き世代の健康

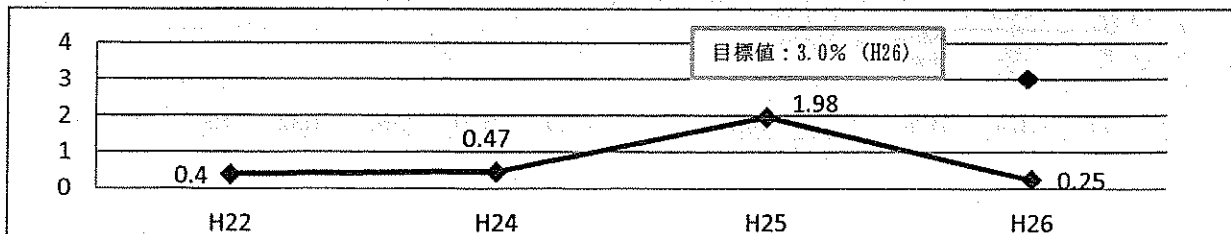
※『1 生活習慣病の発症予防と重症化予防の徹底』の「7. 特定健康診査の受診率・特定保健指導実施率の向上」参照

(4) 高齢者の健康

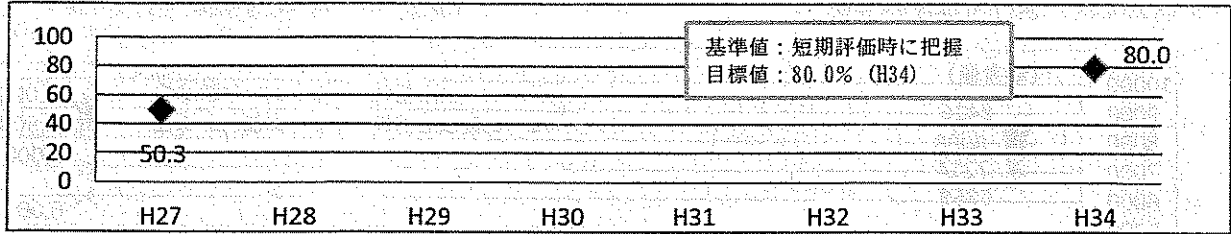
20. 65歳以上の元気な高齢者の割合



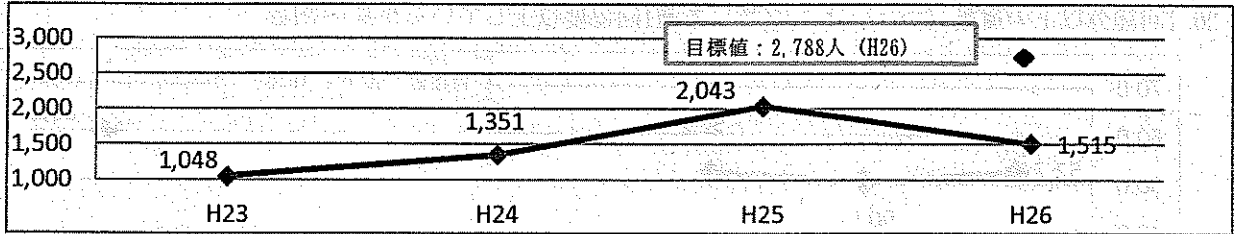
21. 認知機能低下ハイリスク高齢者の把握率の向上



22. ロコモティブシンドローム（運動器症候群）を認知している市民の割合の増加



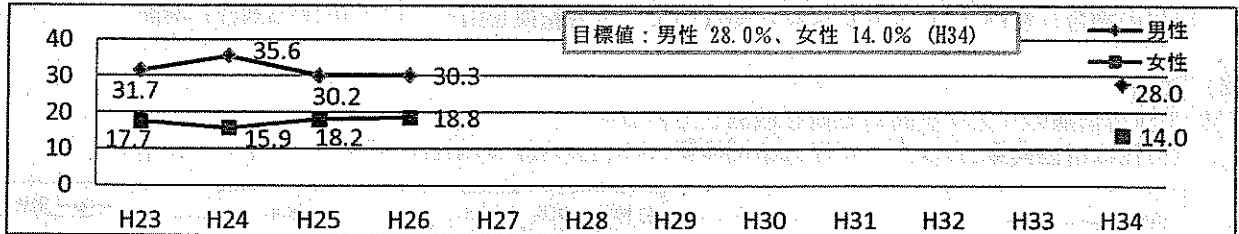
23. 二次予防事業利用者の見込み



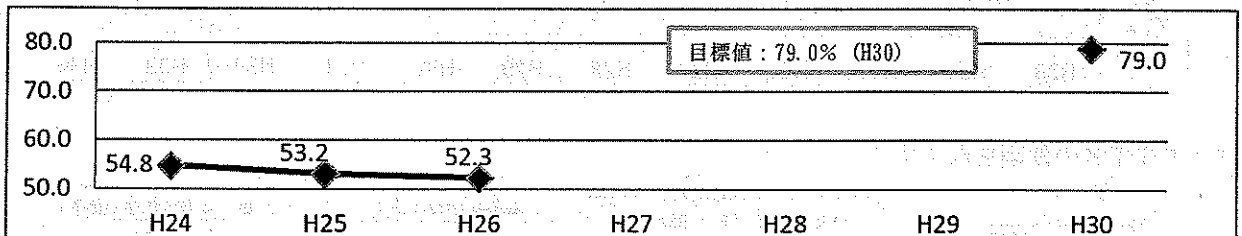
3 健康づくりを進める生活習慣の改善と環境づくり

(1) 栄養・食生活

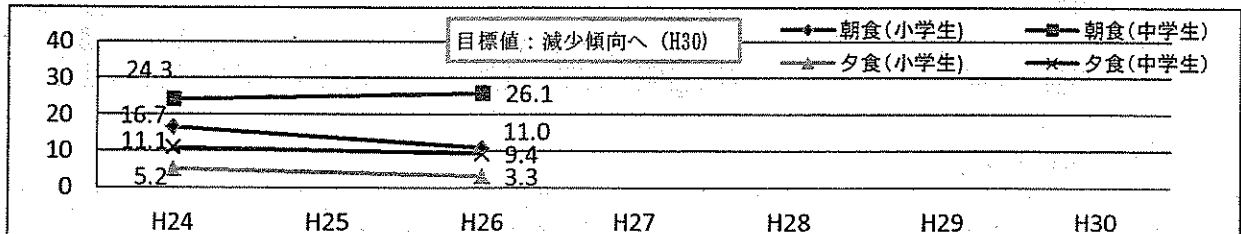
24. 適正体重を維持している者の増加（40歳～60歳代男性・女性の肥満者の割合）



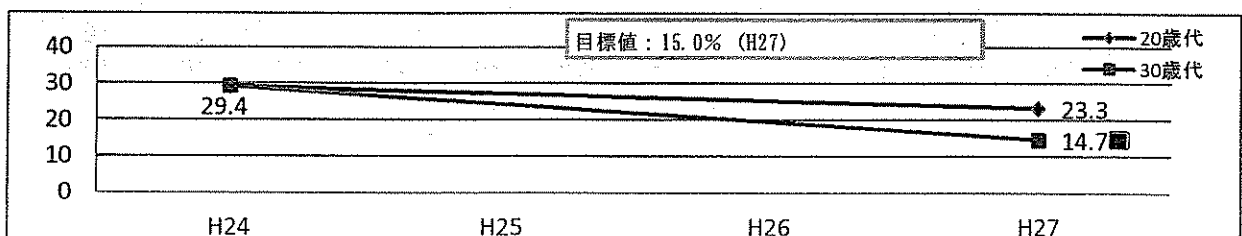
25. 健全な食生活が実践できる市民の割合



26. 共食の増加（食事を1人で食べる子どもの割合の減少）

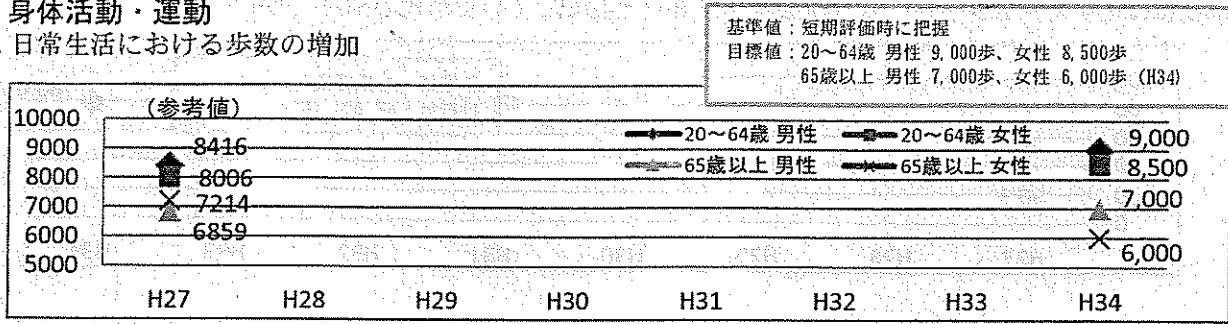


27. 20、30代男性の1週間あたりの朝食の欠食率の減少

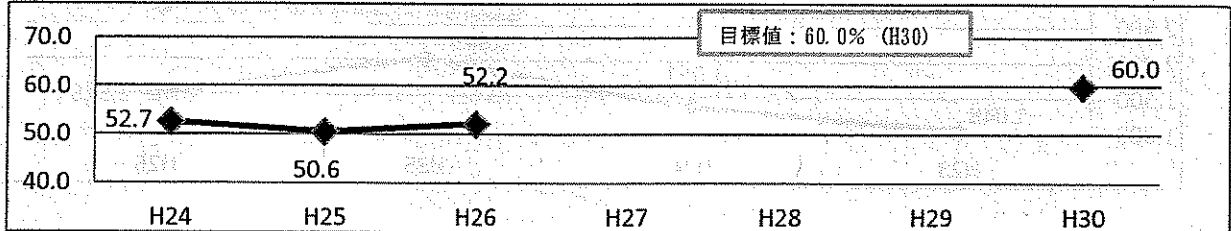


(2) 身体活動・運動

28. 日常生活における歩数の増加



29. 1回30分以上の運動（ウォーキング等）を週1回程度以上している市民の割合

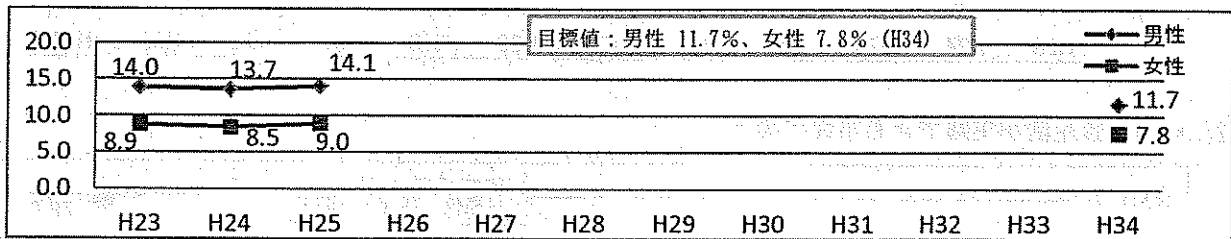


(3) 休養

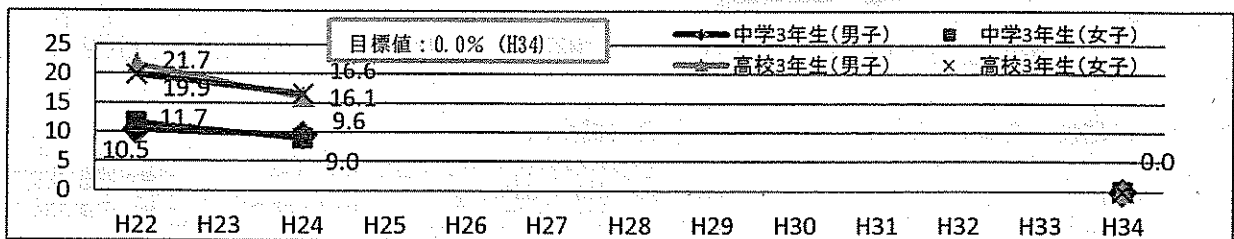
※『2 社会生活を営むために必要な機能の維持及び向上』の「13. 睡眠を十分にとっている市民の割合」及び「14. ストレスをためないよう気分転換を図っている市民の割合」参照

(4) 飲酒

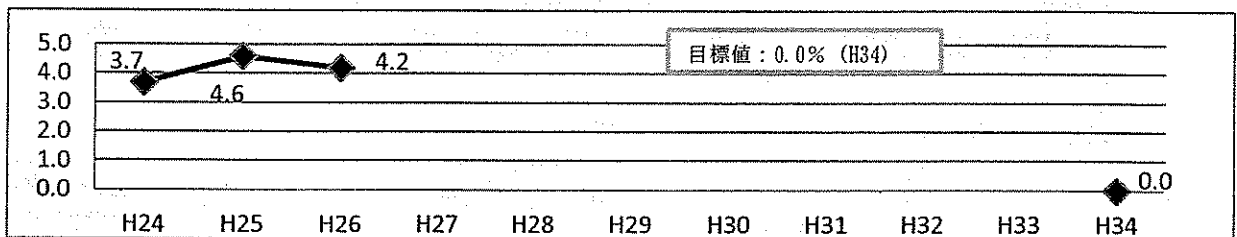
30. 生活習慣病のリスクを高める量を飲酒している者（男性は清酒換算2合以上、女性は清酒換算1合以上の者）の割合の減少



31. 未成年者の飲酒をなくす

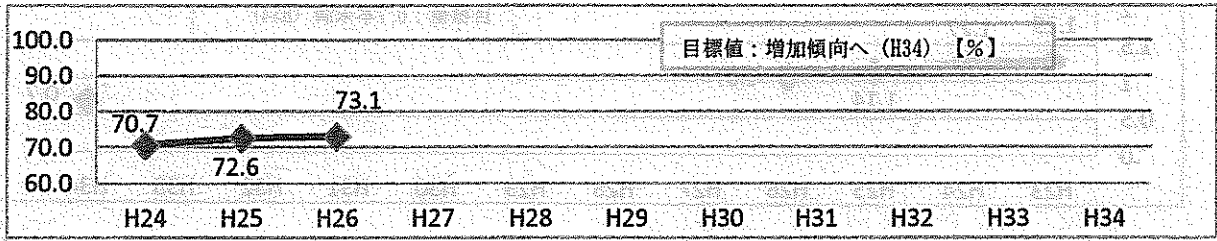


32. 妊娠中の飲酒をなくす

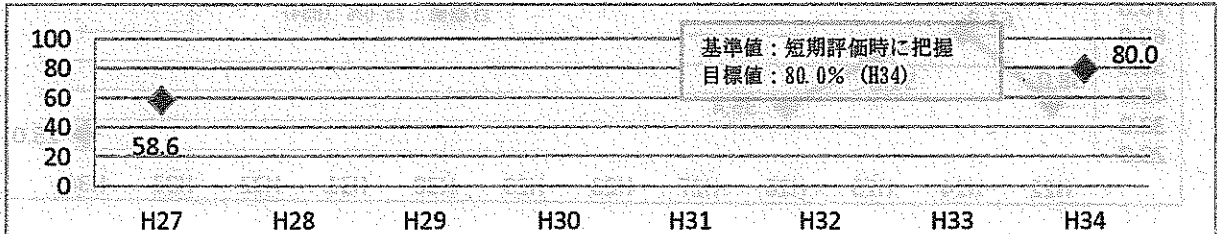


(5) 喫煙

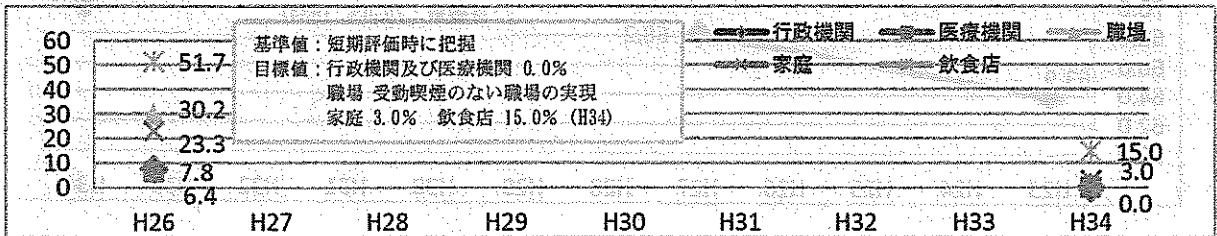
33. 「たばこを吸わない」と答える市民の数を増やす



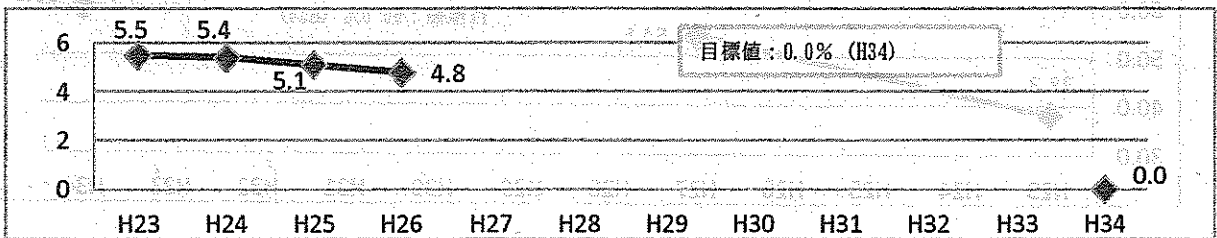
34. COPDの認知度の向上



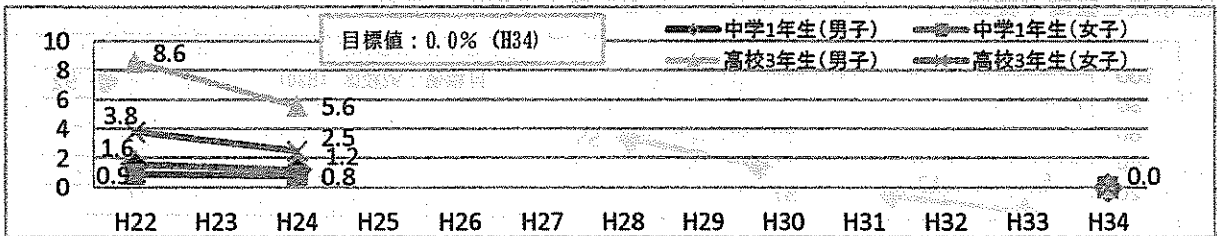
35. 受動喫煙（家庭・職場・飲食店・行政機関・医療機関）の機会を有する者の割合の減少



36. 妊娠中の喫煙をなくす

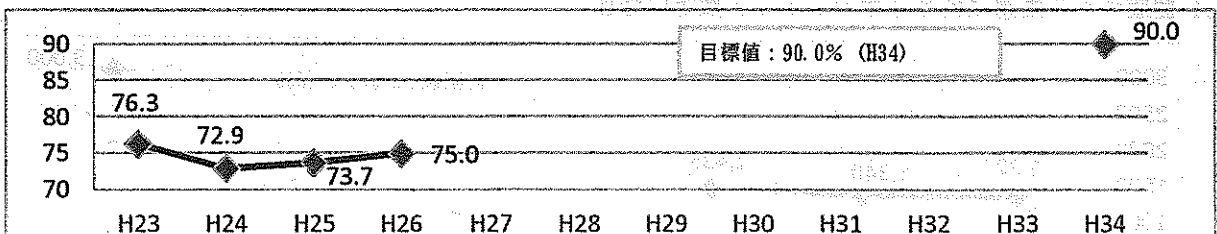


37. 未成年者の喫煙をなくす

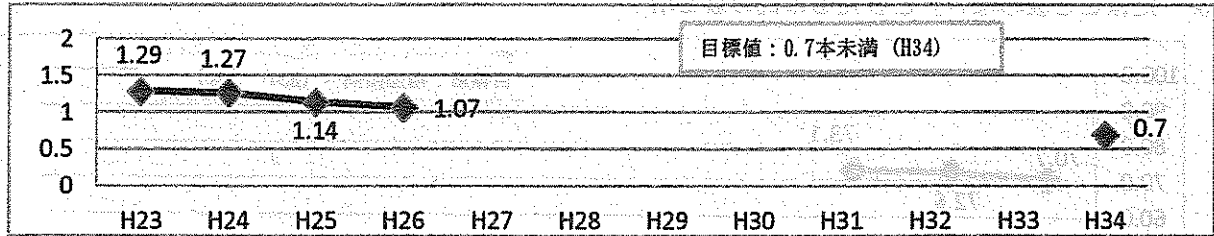


(6) 歯・口腔の健康

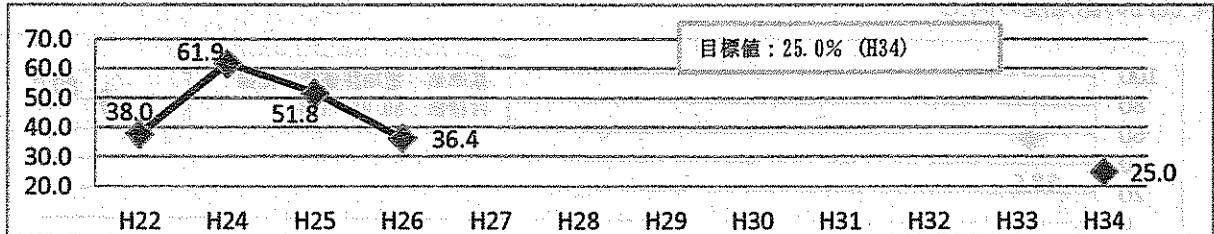
38. 3歳児でむし歯のない者の増加



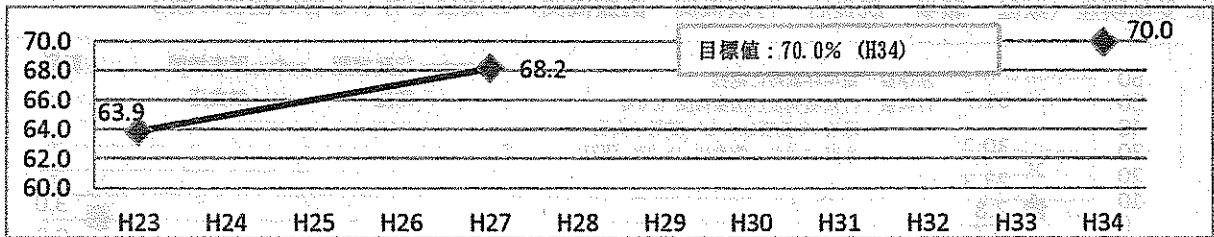
39. 12歳児でむし歯のない者の増加（中学1年生） ※1人あたりのむし歯本数



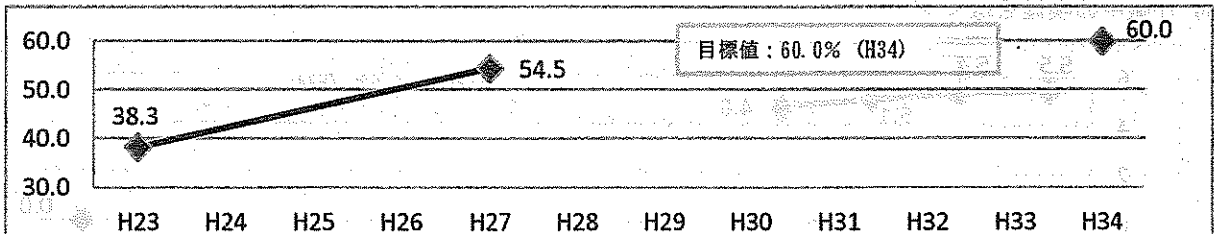
40. 20歳代における歯肉に炎症所見を有する者の減少



41. 60歳で24歯以上の自分の歯を有する者の増加



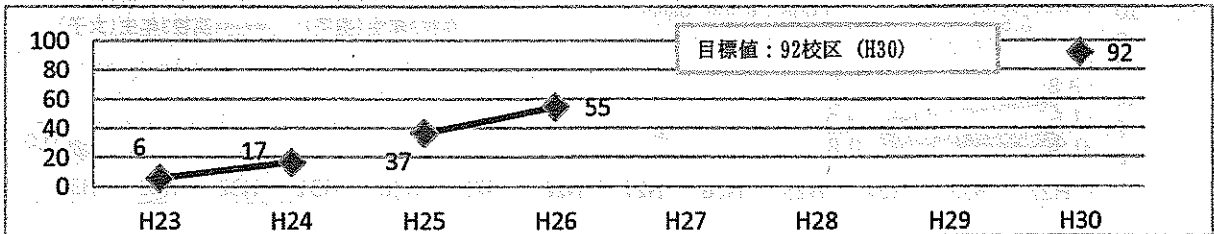
42. 80歳で20歯以上の自分の歯を有する者（8020達成）の増加



4 健康を支え、守るための社会環境の整備

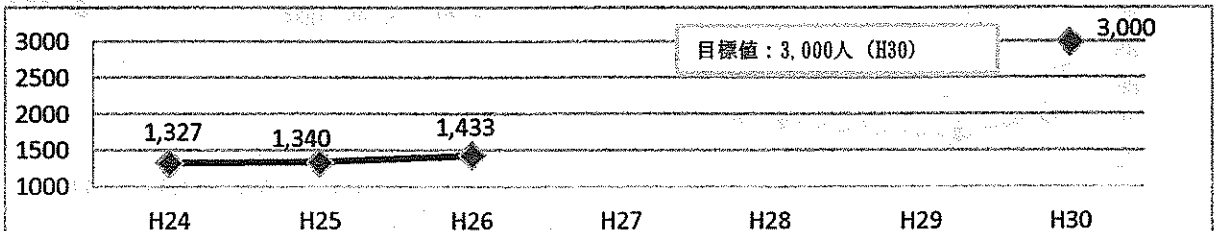
(1) 小学校区単位の健康まちづくり

43. 市民と協働で健康をテーマとしたまちづくりを実施する校区の増加

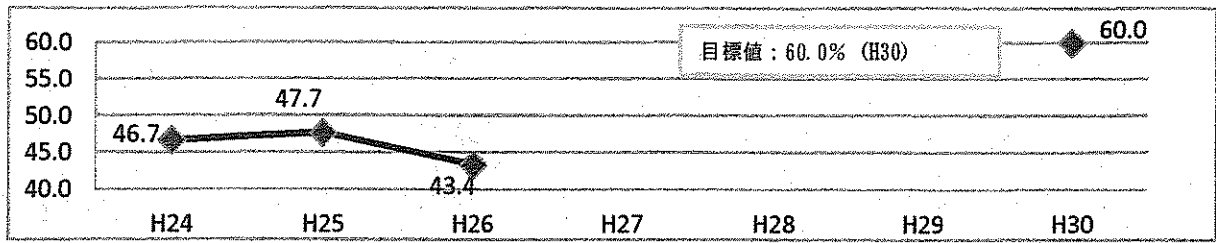


(2) 健康づくりを支えるボランティアの育成・支援

44. 健康づくり推進に関するボランティア数等の増加

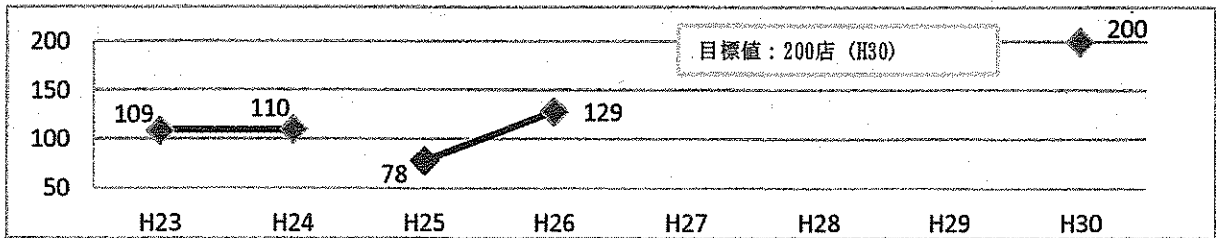


45. 過去1年間に地域活動に参加した市民の割合（参加したことがある）



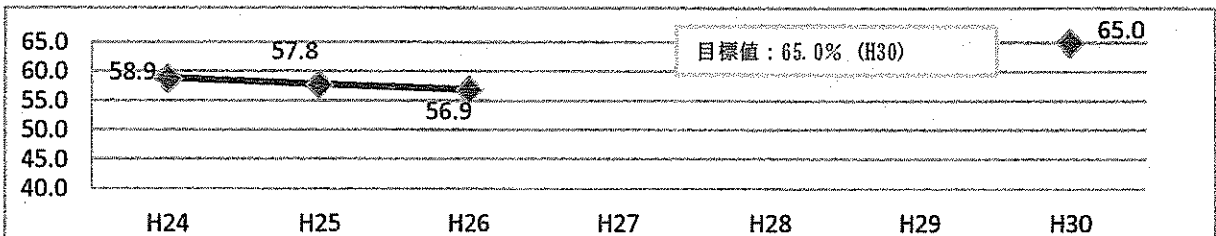
(3) 企業・大学等の健康づくり活動の促進

46. 健康づくりできます店の登録数の増加

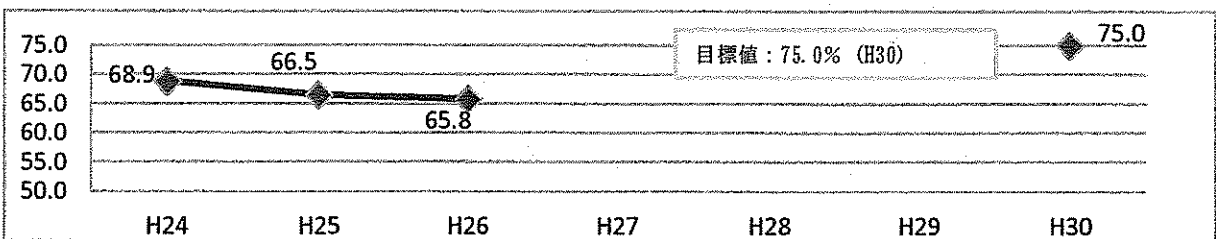


基本目標 健康意識の醸成 健康分野における地域コミュニティづくり 健康寿命の延伸

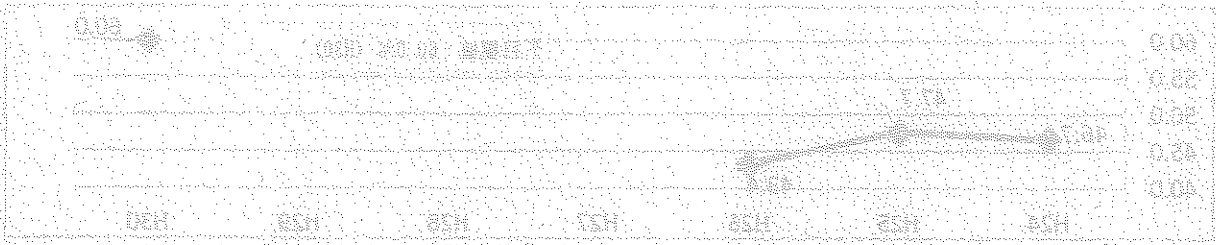
1. 健やかにいきいきと暮らしていると感じる市民の割合



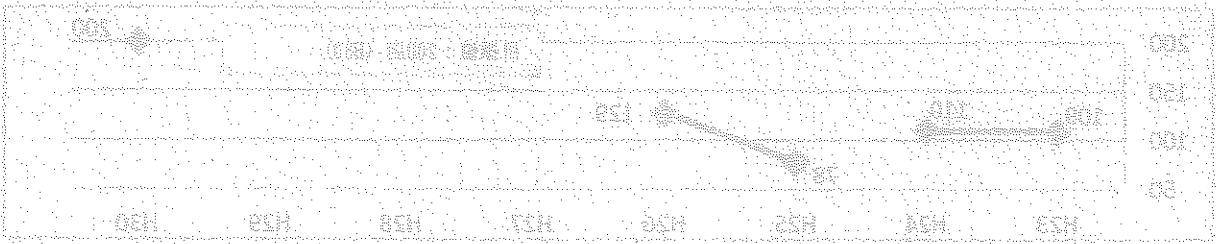
2. 自ら健康づくりに取り組んでいる市民の割合



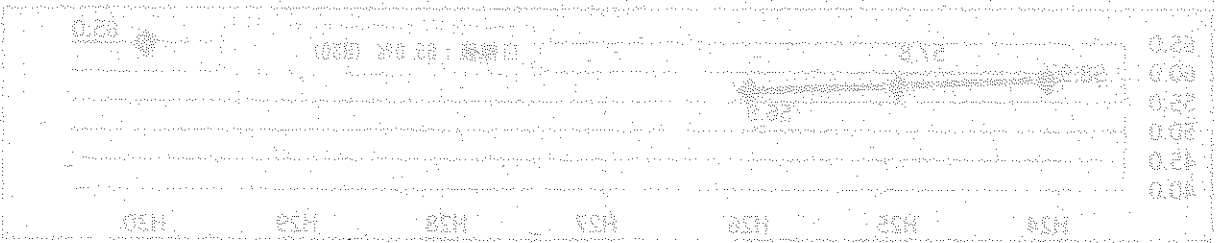
（各年々々式）各年の平均値の推移を比較する折線グラフ



（各年々々式）各年の平均値の推移を比較する折線グラフ



折線グラフの描き方：折線グラフは、データの推移をわかりやすく示すのに適しています。また、折線グラフは、データの傾向や変化を把握するのに役立ちます。



（各年々々式）各年の平均値の推移を比較する折線グラフ

